



Tibet Action Institute

བོད་དོན་ལས་འགུལ་བསྐྱེ་གནས་ཁང་།

チベットハウス・ジャパン

Tibet House Japan

世界がまだ知らない

真実

家族から引き離された子供たち

中国政府がチベットで展開する
植民地的寄宿制学校



世界がまだ知らない真実 家族から引き離された子供たち

中国政府がチベットで展開する
植民地的寄宿制学校

2021年12月

**SEPARATED FROM THEIR FAMILIES
HIDDEN FROM THE WORLD**
China`s vast system of colonial
boarding schools in Tibet

謝辞

チベット・アクション・インスティテュートより本報告書をご提供いただき、また本報告書の日本語訳の出版を許可していただいたことに心より感謝いたします。本報告書の発行に際し多大なるご協力を賜りましたスチューデント・フォー・フリー・チベット・ジャパン (SFTJ)、ならびに本報告書の翻訳にご協力頂きましたドリーム・フォー・チルドレンの亀田浩史氏に感謝いたします。

ACKNOWLEDGEMENT

We sincerely thank the Tibet Action Institute for the report and for allowing us to bring out the Japanese translation of the report. We would like to thank Students for a Free Tibet (SFT) Japan for their sincere contribution in publishing this report. We thank Mr. Kameda Hirofumi of Dream for Children for his help and cooperation in the translation of the report.



本著作は、クリエイティブ・コモンズの非営利、共有4.0 国際ライセンスの下で認可されています。

©Tibet Action Institute 2021

©和訳:チベット・ハウス・ジャパン 2023

表紙及び裏表紙の画像は南西大学Guo Tingting氏の修士論文(2018)からの引用です。

Tibet Action Institute は、チベットの自由を求める運動を推し進めるために、戦略的な非暴力の活動とデジタルツールを融合しています。専門の活動家、戦略家、技術者を結び付け、先進的な戦略、革新的なトレーニング、教育、技術プログラムを立案、実行しています。そして、チベットが人権、自由を手にすることができるようチベット人にツールと知識を提供しています。

詳細は、ウェブサイトをご参照ください→ <https://tibetaction.net>

目次

要約と主な発見	6
チベット地図	7
はじめに	8
研究の手法	13
チベットの寄宿制学校の歴史	14
精神の改造	21
脅迫された両親が迫られる「選択」	30
「4分の3」植民地的寄宿制学校に連行される子供たちの割合	37
寄宿制学校で学ぶ6～18歳のチベット人の子供の数	40
地域ごとの寄宿制学校の学生数	41
植民地的寄宿制学校の影響	44
国際法と国内法	53
結論	59
提言	60
付録1 現在の植民地的寄宿制学校に対するチベット人の意見	63
付録2 証言の二次情報	70
付録3 寄宿制学校の元生徒の証言	77
謝辞	88

序文

チベットは古代から独立した平和な国でしたが、共産党が支配する中国は1950年にチベットに侵攻し、この地を不法占拠しました。チベットの精神的、政治的な（政教両面）指導者であるダライ・ラマ法王は当時まだ15歳でした。この若い指導者とチベットの役人たちは、中国の指示を受け入れ、平和に暮らすために最善を尽くしました。しかし、中国の植民地拡大政策は、残酷な残虐行為と弾圧という形で明らかになりました。チベット人は1959年に反乱を起こしましたが、残酷にも鎮圧され、多くの人々が命を落としました。ダライ・ラマ法王と約8万人のチベット人はチベットを逃れ、インド、ネパール、ブータンに亡命しました。

中国がチベットを占領した後、120万人以上のチベット人が亡くなり、6000カ寺以上の僧院や尼僧院が破壊されました。しかし、70年にわたる残忍で抑圧的な支配と強制的な洗脳にもかかわらず、チベット人は弾力性を保ち、自分たちのアイデンティティ、宗教、文化に誇りを持ち続けました。亡命チベット人は、ダライ・ラマ法王の指導の下、国際社会の支援を受けて、中国共産党幹部がチベットで破壊したものを保存し、発展させてきました。チベット問題は、自由と正義を求める被抑圧人民（抑圧されている人々）の平和的闘争という国際的な問題となりました。

2012年に政権についた習近平は、さまざまな怪しげな手段を使って任期を延長しました。習近平は現在、「一国家、一民族、一言語」政策を打ち出し、中国という一国家、中国人という一民族、標準語（北京官話に基づく標準語）という一言語を実現させようとし、その実行に執念を燃やしています。この政策の背後にある考えは、すべての少数民族のアイデンティティ、言語、文化を破壊し、多数派の漢民族のアイデンティティで圧倒することです。これは文化的大虐殺であり、チベットでは咎められることなく公然と行われています。

米国を拠点とするNPO、チベット・アクション・インスティテュートは、中国が1980年代から（以降）いかにチベット人の子どもたちから故郷、言語、アイデンティティを奪い、否定しようとしてきたか、そしてこの10年間にその政策をいかに拡大しようとしてきたかということに関する報告書を発表しました。現在、100万人以上のチベット人の子どもたちが、家族から強制的に引き離され、家から遠く離れた中国式の寄宿学校に預けられています。わずか4、5歳の子どもたちもこうした寄宿学校に入れられ、中国語と共産党のプロパガンダだけを教えられています。このことは、子どもたちの心理的・精神的状態やアイデンティティに大きな影響を与えています。

私たちは、日本の一般市民、政府、国会議員、知識人、人権活動家が、この報告書に目を通し、中国指導部に対し、チベットにおけるこの文化的大量虐殺をやめさせ、チベットの子どもたちをこうした制限の多い寄宿学校から解放することを強く求める声明を発表してくださるよう要請したいと思います。チベット人の子供はチベット人らしく、中国人の子どもは中国人らしくあるようにしておくべきであるという、強く明確なメッセージを中国の指導部に送りましょう。

本書巻末の87ページに、声明の参考資料やサンプルが掲載されていますので、ぜひご覧ください。自分のスタンスや組織のスタンスに合わせて、自分なりの言葉で声明をお願い申し上げます。

代表：アリヤ・ツェワン・ギャルポ

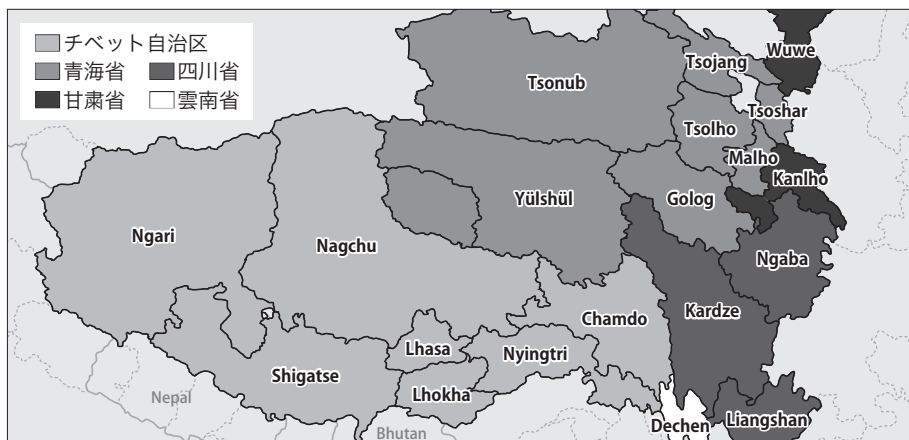
要約と主な発見

中国政府はチベットで寄宿制学校を大規模に展開してきた。子供たちは家族から引き離され、高度に政治化された教育を受けることとなった。学校で主に使われているのは中国語である。この学校は僻地に暮らす人々に教育を提供する手段であると中国政府は主張する。しかし、実際は、習近平国家主席が推し進める民族同化政策の現場となっている。

習近平の狙いは、民族同化を進めることで、中国共産党への脅威を予め取り除くことである。寄宿制学校がチベット人の子供、家族に与える影響は甚大で、心理的トラウマも伴う。長い歴史を持つチベットのアイデンティティが今、危機に瀕している。国連、そして、各国政府は、チベットにおけるこの悪しき中国の政策を停止するよう緊急の呼びかけを行う必要がある。

本報告書で明らかになったのは下記の点である。

- チベットにおける教育のほとんどが寄宿制学校で行われている。6～18歳のチベット人の子供80万人が寄宿制学校に入れられている。実に、78%の子供が寄宿制学校に連行されている計算になる。
- チベット人の子供の両親は子供を寄宿制学校に送ることを余儀なくされている。中国政府による弾圧下のチベットでは他の選択肢がないためだ。子供を寄宿制学校に送りたくない両親に対し脅迫が行われていることが証言から明らかになった。
- 子供たちは、チベット語を学ぶ機会を奪われ、文化的アイデンティティを失う危機に瀕している。この理由は、以下の3点である。
 1. 授業が主に中国語で行われる。
 2. 子供達は家族やチベット人コミュニティから引き離され、真のチベットの仏教、文化、伝統に触れる機会を奪われる。
 3. 子供達は高度に政治化されたカリキュラムの下で教育を受ける。これには、チベットの子供たちを中国人と自覚させる狙いがある。



- 寄宿制学校は、チベット人および「少数民族」を標的にしており、差別的である。漢人が寄宿制学校に通うのは、たとえ僻地であっても稀である。
- 寄宿制学校に通うチベット人の子供たちは、大きな精神的苦痛を抱えている。家族、コミュニティ、文化から引き離された結果、この上ない孤独を抱えている。
- 中国政府がチベットで展開する寄宿制学校は、複数の国際人権条約違反である。中国が批准している条約、国内法にも違反している。

「2020年、(安全上の理由で地名削除)で、中国当局は(村の)学校を保育所に変え、学生が村で勉強するのを禁じました。家族は、子供を都市の学校に送らざるをえなくなっています。」(東チベットの親)

「(地名削除)では、4歳以上の子供を寄宿制学校に送るのが義務になっています。先生は中国語しか話しません。すべての授業が中国語で行われています。童謡、子守唄も中国語です。子供たちが7歳になって小学校に通い始める時点で、ほとんどの子供がチベット語を話せなくなっています。」(東チベットの教師)

はじめに

習近平国家主席がチベットの文化、言語、宗教、アイデンティティへの攻撃を続ける中、この10～15年間、チベットにおける教育政策は変化してきた。植民地的寄宿制学校が拡大しているのだ。この学校は、海外の植民地学校に類似している。公式データに基づいて控えめに見積もっても、少なくとも80万人のチベット人の子供がこの寄宿制学校に閉じ込められている¹。この数字は、6～18歳のチベット人の子供約78%に相当する。4、5歳の子供も寄宿制学校に連行されているが、この数字は上記に含まれていない²。

寄宿制学校の狙いは、チベット人のアイデンティティを薄め、中国化することだ。そして、最終的にはチベット人のアイデンティティを抹殺することを狙っている。これにより、中国政府へのチベット人の抵抗を抑えることが可能になる。

人権と自由を求めてチベット全土でチベット人が声を上げてから13年になる。チベット人などの民族に与えられた見せかけの自治と民族間調和すらも現在では姿を消しつつある。チベット人のアイデンティティは守られていると中国の役人は言う。しかし、紛れもない中国化政策が存在し、チベット人が拠り所とする言語³、生活様式⁴、宗教⁵は変容しつ

1 情報源、子供たちの連行先は40ページ参照(訳注:原著では別のページを参照しているが、おそらく40ページの間違いと思われる)

2 付録1の情報1、オンラインコメント1

3 例えば、Human Rights Watch, "China's 'Bilingual Education' Policy in Tibet," 2020, https://www.hrw.org/sites/default/files/report_pdf/tibet0320_web_0.pdf (2021年11月21日アクセス)

4 例えば、Human Rights Watch, "'They Say We Should Be Grateful,' Mass Rehousing and Relocation Programs in Tibetan Areas of China," June 2013, <https://www.hrw.org/report/2013/06/27/they-say-we-should-be-grateful/mass-rehousing-and-relocation-programs-tibetan> (2021年11月23日アクセス)

5 これについては多くの情報源がある。最近では、習近平が「チベット仏教は社会主義に適応し、中国の事情に合わせて発展しなければならない。」と述べている。「China sets policy directions for building a modern socialist Tibet," August 30, 2020, <https://news.cgtn.com/news/2020-08->

つある（中国化とは、中国共産党が非中国社会を、中国の文化・言語・社会規範に適合するよう変容させることを言う。民族のアイデンティティを変容、同化させる政策であり、より直接的な文化的帝国主義をとる場合もある）。

この政策は、文化同化を通じて民族を長期的に政治支配することを目的としており、チベット人、ウイグル人などの固有のアイデンティティ・文化を中国文化に置き換えることを目論んでいる。習近平は、「中国共産党および中国の安定を継続するために中国の一員としての強い一体感⁶」を持つ統治が必要だと述べている。

寄宿制学校⁷に囚われた子供たちは、幼い頃から家族や社会から離れて暮らし、人生において重要な言語、宗教、伝統から引き離される。ほとんどの授業は中国語で行われる。チベットの文化については中国共産党が許可した内容しか教えられず、ほぼ歌と踊りのみである⁸。最優先の教育は政治教化だ。

政治教化は、「すべての民族の学生に正しい国家、宗教、歴史、文化の考え方を常時教える⁹」ためのものと位置付けられている。子供たちは極度の孤独感を感じ、ホームシックになる。かつて寄宿制学校に通ったことのある学生は次のように語っている。

29/Xi-addresses-seventh-Tibet-work-forum-in-Beijing--TlGiGamKcM/index.html (2021年7月6日アクセス) オンラインアーカイブ:<https://web.archive.org/web/20210913091617/https://news.>

6 Xinhua, "Xi Focus: Xi stresses high-quality development of Party's work on ethnic affairs," August 28, 2021, http://www.news.cn/english/2021-08/28/c_1310154568.htm (2021年11月5日アクセス) オンラインアーカイブ:https://web.archive.org/web/20211021193455/http://www.news.cn/english/2021-08/28/c_1310154568.htm

7 チベット語でbca sdod slob draあるいはgtan slob、中国語で寄宿制学校という。

8 例えば、"A Day in the Life of a Tibetan High Schooler," (1分27秒), <https://news.cgtn.com/news/3d3d514e79557a4e33457a6333566d54/index.html> (2021年6月20日アクセス)

9 State Council, "Decision of the State Council on Accelerating the Development of Ethnic Education," National Document [2015] 46, issued August 11, 2015, section 19, www.gov.cn/zhengce/content/2015-08/17/content_10097.htm (2021年11月5日アクセス) オンラインアーカイブ:https://web.archive.org/web/20210629235302/http://www.gov.cn/zhengce/content/2015-08/17/content_10097.htm

「3年間1度も1日のはじまりが幸せだと感じたことはありません。授業に行くのも楽しくはありませんでした。いつも考えていたのは、『いつ家に帰れるのだろうか』ということだけでした¹⁰」

寄宿制学校での経験は、子供本人にとってもその両親にとっても、この上ない心理的・社会的重荷となりうる。言語、文化、宗教、伝統から長期間隔離された影響は測り知れない。

子供の両親は子供を寄宿制学校に送ることを余儀なくされる。これには、複数の複雑に絡み合った要因がある。中国のチベットにおける植民地的入植プロジェクトにより、チベット人の生活は変容し、都市化が進んだ。貨幣経済への依存が増し、多くの地域で中国語が使われるようになった。チベット人が職やサービスを探す際にも不利が生じ、差別が横行している。このような状況下で、チベット人の親は、この急速に変化する世界で生きていくには子供に教育を受けさせる必要があると考えている。

中国政府は、地方にあるチベット人の学校を積極的に閉鎖している。小学校も閉鎖の対象になっている。僧院の学校、チベット人が経営するその他の学校も閉鎖対象だ。閉鎖された学校に通っていた子供たちは寄宿制学校への転校を余儀なくされる。最終的には、チベット人のアイデンティティを持っていることが犯罪と見なされる。チベット人はオンラインでもオフラインでも監視される。チベット人を助けてくれる正義は存在しない。

こうして、子供たちに残された選択肢は寄宿制学校のみとなっている。本報告書内の一時情報から、子供を寄宿制学校に送るのを拒否した場合は脅迫、罰金などの懲罰を科されることが判明している。チベット人の

10 付録3の証言5

親は基本的に脅迫を受け続ける。そして、子供を寄宿制学校に送る以外の選択肢を失うのだ。

チベットで展開されている寄宿制学校と、カナダ、アメリカの寄宿制学校、オーストラリアのアボリジニーの「失われた世代」が強制的に通わされた国営の訓練学校には同じ目的があるという確固たる証拠がある。

これらの国の植民地的寄宿制学校、その他の国営、宗教的組織の目的は、ファースト・ネーション、イヌイット、メティス、ネイティブ・アメリカンなどの先住民のアイデンティティを抹殺し、支配者側の文化、宗教を強いることであった。これらのシステムの主要な特徴は、子供を家族やコミュニティから引き離し、母語を捨てさせ、文化的アイデンティティや伝統との結びつきを断つことであった。

これらの政策は「先住民を同化させ、アイデンティティを持つ民族として存在できないようにする」ものであったと、カナダ真実和解委員会は述べている¹¹。

これらのカナダ、アメリカ、オーストラリアの破壊的政策がチベットにすべて当てはまるかどうかは不明だ。特に、チベットにアクセスできないことにより、肉体的、性的、精神的虐待、ネグレクトが、チベットの寄宿制学校に広がっているのかを評価するのはほぼ不可能である。肉体的、性的、精神的虐待、ネグレクトは、カナダ、アメリカ、オースト

11 Truth and Reconciliation Commission of Canada, 2015, "Honouring the Truth, Reconciling for the Future: Summary of the Final Report of the Truth and Reconciliation Commission of Canada," p. 153. The Commission also described residential schools as a central element of "cultural genocide," elaborating: "Cultural genocide is the destruction of those structures and practices that allow the group to continue as a group. States that engage in cultural genocide set out to destroy the political and social institutions of the targeted group. Land is seized, and populations are forcibly transferred and their movement is restricted. Languages are banned. Spiritual leaders are persecuted, spiritual practices are forbidden, and objects of spiritual value are confiscated and destroyed. And, most significantly to the issue at hand, families are disrupted to prevent the transmission of cultural values and identity from one generation to the next." (p. 1)

ラリアの子供達が想像を絶するほど経験している。これらの植民地主義的学校とその他の寄宿制学校には3つの重要な違いがある。

- 1) 入学にあたって選択の自由がないこと。
当局からの強制の場合と他の選択肢の欠如の場合がある。
- 2) 学生の文化的アイデンティティに影響を及ぼしたり抹殺したり、支配者側の宗教や思想を植え付けることを学校側が意図していること。
- 3) 学生が両親、家族、コミュニティから引き離されること。

上記の項目は、チベットで中国政府が展開する寄宿制学校にすべて当てはまる。

チベットの寄宿制学校は、中国の愛国的なアイデンティティをチベット人に強い、中国化させることを目的とした狡猾なツールである。これにより、中国共産党や中国政府への抗議が減ることになる。チベットの寄宿制学校は、カナダ、アメリカ、オーストラリアの寄宿制学校や「子供の連行」とは異なる点があるものの、ある民族を服従させ支配することを目的とする点など類似点も多い。

中国政府は、東トルキスタン（ウイグル）でも同様の政策を行っている。中国政府は、ウイグル人の子供を家族から引き離し、寄宿制学校、幼稚園に送っている。そして、大人を中国愛国教育を行う再教育キャンプに送っている。これらの政策が、現在の世代、そして、未来の世代に与える影響は測り知れない。国連、世界中の政府は緊急アクションをとる必要がある。中国政府がアクションを取る必要があるのは言うまでもない。

研究の手法

中国政府はチベットの情報を極度に規制している。これにより、本報告書の研究は制限を受けている。チベット、中国外に拠点を置くチベット人を含む外国人研究者がチベットに入ることは、ごく稀な例外を除いて、許されない。インターネット通信は監視されており、中国政府がセンシティブだと見なしている話題を議論することは、チベット人にとっての上なく危険である。とりわけ、海外に暮らす人々と通信するのは危険性が高い。

それ故、私たちの報告書は、利用可能な情報を結びつける形で作成された。チベット本土の1次情報により、中国の教育政策がチベット人に与えている生々しい経験が明らかになった。この1次情報は、チベット本土に暮らす人々とつながりがあるチベット難民から提供された。

安全性を考慮して、情報源を特定することは控えた。また、チベット本土の情報に詳しいチベット難民および実際に寄宿制学校に通った経験のあるチベット難民からも情報提供を得た。また、中国内の学者、その他の研究機関や人権団体の報告書や記事にも目を通した。

最後に、寄宿制学校に暮らしているチベット人の子供の数を推計した。この際、2010～2020年の国勢調査、国・省の統計年鑑、政府・地方の報告書、学術論文、メディア記事を使用した。

中国政府の統計データは疑いの目を持ってみる必要がある。特に、経済データについては注意を要する¹²。省・州レベルのデータについても、目標を満たすために数字が変えられるのは珍しいことではない。これは、中国の行政データを使う研究に付きまとう問題だ。データの信頼性に問

12 例えば、Wallace, Jeremy L. "Juking the stats? Authoritarian information problems in China." *British Journal of Political Science* 46, no. 1 (2016): 11-29

題がある可能性はあるが、私たちが提供するデータは、現在の寄宿制学校制度の規模と範囲を示すのに役立つだろう。

私たちは、1次情報、チベット人の証言、中国内の学者の証言を使って、データを補完しようとしてつとめた。寄宿制学校に暮らすチベット人の子供が多くいること、そのうち小学生の数が増えていることが、中国の政策文書、チベット人の証言、中国国営メディアから明らかになった。また、チベットの行政区画の性質（次段落参照）上、データは様々な情報源、異なるレベルの政府から得られたものである。しかし、それでも、ほぼすべてのチベット人居住地で同様の傾向を示している。

ここで言う「チベット」とは、アムド、カム、ウツァンを示している。1960年代、中国政府はチベットをチベット自治区とチベット自治州に分割した。チベット自治州は青海省、甘粛省、四川省、雲南省に位置する（7ページ参照）。チベット人の人口データは多くの行政区に分断されているため、チベット全体の研究を行うのは多大な労力を要する。

中国政府の言うチベットは、チベット自治区だけである。2010年の国勢調査（2020年の全チベットの国勢調査はまだ入手できていない）によると、チベット人の人口は620万人で、そのうちの44%に相当する270万人がチベット自治区で暮らしている。

チベットの寄宿制学校の歴史

中華人民共和国の統治下で、チベットの教育は幾度となく変更されてきた。その内容は地域によって様々だ。チベット人はお互いに地理的に離れた場所で分散して小さなグループで暮らしていることから、寄宿制学校は実現可能なモデルと見なされてきた¹³。チベットにおける初期の寄宿制学校には根深い問題があったことが個人の証言から明らかになっ

13 Cao, Gazang. "Alienation of Tibetan adolescents in rural boarding schools." *Frontiers of Education in China* 11, no. 4 (2016): 505

ている。しかし、それを上回る破壊的とも言える問題がこの10年間顕著になっている。

現在のチベットの寄宿制学校の先駆けと言えるのが、内地学校プログラム（中国語：内地班。地方民族学校と呼ぶ学者もいる。）である。チベット自治区だけを対象にしたこのプロジェクトは1985年に始まったが、その後拡大を続けている¹⁴。この目的は紛れもなく政治的なものだ。子供たちをコミュニティから引き離し、言語、文化について新たな規範を植え付け、中国共産党に忠誠を誓わせるのだ。民族政策の学者ジェイムズ・レイボルドは、次のように述べている。

「いかにして『中国人』になるか、許容される行動、思考、存在について学び、それにいかにして従うかが教え込まれる。文字通り軍のブートキャンプである¹⁵」

民族同化を目的にしているにもかかわらず、家族がこぞって子供を送り込むエリートプログラムと見られている。

内地学校プログラム以外にも、1980年代、1990年代のチベットには寄宿制学校が存在した。個人の証言によると、当時の寄宿制学校では、学生は栄養失調で、医療・衛生状態も最低限しかなく、虐めや虐待も日常茶飯事であったという¹⁶。

1980年代になると、国及び地域で大きな変化が起きた。「各民族地域で、各々の教育プログラムを推し進めてよい。これには、学校の種類、カリキュラム、授業で使用する言語も含まれる¹⁷」この時期に限っては、

14 Leibold, James. "Interior ethnic minority boarding schools: China's bold and unpredictable educational experiment." *Asian Studies Review* 43, no. 1 (2019): 1

15 Leibold, James, and Timothy A. Grose. "Cultural and political disciplining inside China's dislocated minority schooling system." *Asian Studies Review* 43, no. 1 (2019): 2

16 付録3の証言

17 Catriona Bass, *Education in Tibet: Policy and practice since 1950* (London: Zed books, 1998), 50

チベット自治区でチベット語による教育を全域に広めることに成功した¹⁸。そして、チベット自治区外でも同様の教育が広がった¹⁹。しかし、地方の村は資金不足で、建物を建てる資材、教材が不足していた。給料も不足しており、学校のカリキュラムを現地に合うように変えることも難しかった²⁰。そのため、教育の質は低く、入学率も低かった²¹。

2001年、中国政府は、「学校統合政策」を開始した。これにより、村の学校は閉鎖され、大規模な学校で教育が行われることになった²²。2004年になると、中国教育部は、「地方での寄宿制学校建設」プロジェクトを開始した。これらのプロジェクトは、コストを減らし、通学の困難を克服しながら、地方の学生の教育の質を向上させることを目的にしていた。チベット研究者ファツェ・ギャルの報告によると、中国の地方にある371,470の学校（81.3%に相当）が、2001～2010年に閉鎖されたという²³。

この数年後、この政策はチベットにも広がった。青海省ティガ県ツォロチベット自治州では、2010年に劇的な変化が起きた。小中学校の数が372から66に激減したのだ²⁴。同時に寄宿制学校の建設が進み、次年末までに、3万8千人の学生が影響を受けた²⁵。そして、2,749人の小中学生

18 Human Rights Watch, "China's 'Bilingual Education' Policy in Tibet," p. 16

19 Zenz, Adrian. "Beyond assimilation: The Tibetanisation of Tibetan education in Qinghai." *Inner Asia* 12, no. 2 (2010): 293-315

20 Postiglione, Gerard A. "Dislocated education: The case of Tibet." *Comparative Education Review* 53, no. 4 (2009): 489

21 例えば、Fischer, Andrew Martin. "Educating for exclusion in western China: structural and institutional dimensions of conflict in the Tibetan areas of Qinghai and Tibet." (2009): 17

22 Human Rights Watch, "China's 'Bilingual Education' Policy in Tibet," p. 76

23 Gyal, Huatse. "I am concerned with the future of my children: The Project Economy and Shifting Views of Education in a Tibetan Pastoral Community." *Critical Asian Studies* 51.1 (2019): 25

24 Cao, "Alienation of Tibetan adolescents in rural boarding schools," p. 506

25 Cao, "Alienation of Tibetan adolescents in rural boarding schools," p. 506

を抱える1つの学校が誕生した。この学校の学生は全員チベット人で、学校は青海省最大であった。「18の学校が合併し、44の学校が連携しました²⁶。」近隣の寄宿制学校の規模も大きく、学生数は2,100人だ²⁷。本報告書の情報源によると、学校の統合政策は、青海省で今なお進行中だという²⁸。

チベット自治区と四川省で学校の統合政策が始まったのは、10年ほど前のことだ。2014年、ラサ郊外に、17の学校を誇る「教育都市」がオープンした。ヒューマン・ライツ・ウォッチは次のように報告している。

「教育都市の敷地内には、そこの村に元々暮らしていたチベット人も暮らしています。その数は5万人以上です。」

ラサ在住の学生も郊外のこの学校で学んでいる²⁹。生徒の中には、自宅が900マイル離れた場所にある人もいる³⁰。

複数の報告から明らかになっていることだが、2013年時点で、ンガパチベット・チャン自治州では少なくとも1地域で学校統合政策が行われている³¹。カルゼチベット自治州でも、2011年にはこの政策が始まっている。ロンダク県の中国人研究者は、2011年のフィールドワーク研究で次のように述べている。

「村の学校が街の中央（寄宿制）学校に統合されているのを見ました。地方の村の学校には誰もいませんでした³²」

26 Cao, "Alienation of Tibetan adolescents in rural boarding schools," p. 506

27 Cao, "Alienation of Tibetan adolescents in rural boarding schools," p. 506

28 Cao, "Alienation of Tibetan adolescents in rural boarding schools," p. 506

29 付録3の証言5

30 Confidential conversation with a Tibetan in exile originally from Lhasa, May 2021; Human Rights Watch, "China's 'Bilingual Education Policy in Tibet,'" p. 92

31 Gyal, "I am concerned with the future of my children," p.14

32 Yang, Bai. "Hybridity and Tibetan language education policies in Sichuan." Australian and International Journal of Rural Education 28, no. 2 (2018): 6

この政策に対しては抗議が相次ぎ、2012年、中国国務院は、学校統合政策を抑制した。国務院は、中国全土で原則として小学校3年生までは寄宿制学校で教育を受けるべきではないと規定した。

一方、小学校高学年については、日中に学校に行くべきであり、「真に必要な場合には寄宿制学校で学んでもよい」とした³³。この指示により、村、人口の少ない地域、地方、交通の不便な場所で、学校建設、教師の雇用が認められることになった。

さらに、地方当局に対しても、「地方で行われている教育をやみくもに停止させることを完全にやめるよう」通達が出され、将来学校を閉鎖する際に住民の声を聞くことを含む詳細な手続きを踏むこととなった³⁴。これ以降、国全体の寄宿制学校の学生の割合は約22%で安定している³⁵。

しかしながら、これは、漢人居住地域以外には当てはまらない。2015年に国務院が発表した「民族教育の加速と発展に関する決定」では、正反対のことが役人に要求されていた。すわなち、少数民族地域における「寄宿制学校」の建設を強化し、「全少数民族を寄宿制学校に住まわせ、

33 State Council, "Guanyu guifan nongcun yiwu jiaoyu xuexiao buju tiaozheng de yijian" [Suggestions of Office of the State Council on Adjusting the Distribution of Rural Compulsory Schools], State Council Issue [2012] No. 48, September 6, 2012, http://www.gov.cn/zwgk/2012-09/07/content_2218779.htm (2021年11月5日アクセス) オンラインアーカイブ: https://web.archive.org/web/20200611115120/http://www.gov.cn/zwgk/2012-09/07/content_2218779.htm

34 Suggestions of Office of the State Council on Adjusting the Distribution of Rural Compulsory Schools, 2012

35 教育部のデータによると、寄宿制学校で学ぶ小学校1年生から中学校3年生までの割合は2010年時点で21.97%、2017年時点で21.65%であった。2010年のデータ:http://www.moe.gov.cn/srcsite/A03/s180/moe_633/201203/t20120321_132634.html (2021年8月20日アクセス) オンラインアーカイブ:https://web.archive.org/web/20211125150652/http://www.moe.gov.cn/srcsite/A03/s180/moe_633/201203/t20120321_132634.html。2017年のデータ: UNICEF, "Figure 8.20 Number of boarding students in primary and junior secondary education, 2017," <https://www.unicef.cn/en/figure-820-number-boarding-students-primary-and-junior-secondary-education-2017> (2021年8月20日アクセス) オンラインアーカイブ:<https://web.archive.org/web/20211125151051/https://www.unicef.cn/en/figure-820-number-boarding-students-primary-and-junior-secondary-education-2017>

学ばせ、育てる目標を達成する」ことが求められた³⁶。この命令の目的の1つが「国家の長期的安定を実現する」というものである³⁷。この政策はチベットで積極的に展開されている。その結果、チベット人の子供たちはチベットに居ながらにしてチベットの教育を受けることが難しくなっている。

漢人の学生と漢人以外の学生に対して異なる政策が取られた結果、寄宿制学校で学ぶチベット人の割合は漢人の割合より劇的に高くなっている。中国政府のデータでは、(チベットを含む)中国内の小学生のうち寄宿制学校で学ぶ割合は14.1%であるという³⁸。

一方、(チベット人の割合が44%を占める)チベット自治区では、寄宿制学校で学ぶ小学生の割合は79.8%³⁹と、国内全体の5倍超となっている⁴⁰。この数字は、漢人が主に暮らし、かつ、地方部が多い省と比較しても50～60%の差がある⁴¹。例えば、漢人の割合が98.8%で、地方部

36 Human Rights Watch, “China’s ‘Bilingual Education’ Policy in Tibet,” p. 77, citing “Decision of the State Council on Accelerating the Development of Ethnic Education.”

37 State Council, “Decision of the State Council on Accelerating the Development of Ethnic Education,” National Document [2015] 46, issued August 11, 2015, section 19, www.gov.cn/zhengce/content/2015-08/17/content_10097.htm (2021年11月5日アクセス) オンラインアーカイブ: https://web.archive.org/web/20210629235302/http://www.gov.cn/zhengce/content/2015-08/17/content_10097.htm

38 Ministry of Education, “Jiaoyubu jiedu ‘Guowuyuan bangongting guanyu quanmian jiaqiangu xiangcun xiao guimo xuexiao he xiangzhen jisuzhi xuexiao jianshe de zhidao yijian’” [Interpretation of the “Guiding Opinions of the General Office of the State Council on Comprehensively Strengthening the Construction of Rural Small-scale Schools and Township Boarding Schools] by the Ministry of Education, May 11, 2018, http://www.gov.cn/xinwen/2018-05/11/content_5290308.htm#1 (2021年7月7日アクセス) オンラインアーカイブ: https://web.archive.org/web/20210913090759/http://www.gov.cn/xinwen/2018-05/11/content_5290308.htm

39 Department of Education of the Tibet Autonomous Region, “Xizang zizhiqiu jiaoyu shiye tongji ziliao (jichu jiaoyu)” [Statistics on Education in the Tibet Autonomous Region (Basic Education)], 2018, pp. 166-172, as cited in Xing Jun-li, “Xizang jisuzhi xuexiao jiaoshi gongzuo manyidu, lizhi yixiang jiqi guanxi” [Teachers’ Job Satisfaction, Turnover Intention and Their Relation in Tibetan Boarding Schools], *Teacher Development Research* 3, no. 2 (2019): 44

40 2018年のデータ

41 この条件に合致する省のすべてのデータが手に入っているわけではない。しかし、データが入手できた

が多い河南省では、寄宿制学校で学ぶ小学生の割合は18.58%である⁴²。また、漢人の割合が89%で地方部が多い湖南省では、寄宿制学校で学ぶ小中学生の割合は28.11%に過ぎない⁴³。今日、チベット人が影響を受けているこの政策は、意図的に非漢人の子供を標的にしたものだ。

チベットにおける寄宿制学校には数十年の歴史がある。しかし、村の学校に通っていた学生が強制的に寄宿制学校へ連行されるようになったのは、今世紀になって学校統合政策が開始されてからである。その被害者は、若い子供たちである。

漢人が多く暮らす地域では寄宿制学校は抑制されているが、チベットにおいては村の学校が閉鎖され、寄宿制学校に取って代わられている。これは、チベット人を漢人に同化させることを狙った中国共産党の明確な意図を持ったやり方である。そして、これにより、中国共産党に対する潜在的な脅威を和らげようとしているのだ。

全地域で同様の傾向になっている。

- 42 “2020 nian Henansheng jiaoyu shiye fazhan tongji gongbao” [Statistical Communiqué on the Development of Education in Henan Province in 2020], March 24, 2021, <https://www.163.com/dy/article/G5SS66QS0536B4AI.html> (2021年8月31日アクセス) オンラインアーカイブ: <https://web.archive.org/web/20210913091112/https://www.163.com/dy/article/G5SS66QS0536B4AI.html>
- 43 Hunan Bureau of Education, “2019 nian quansheng jiaoyu shiye fazhan gaikuang” [Overview of the province's education development in 2019], March 11, 2020, http://jyt.hunan.gov.cn/jyt/sjyt/xxgk/ghjh/tjxx/202003/t20200312_11810778.html (2021年8月26日アクセス) オンラインアーカイブ: https://web.archive.org/web/20210913091332/http://jyt.hunan.gov.cn/jyt/sjyt/xxgk/ghjh/tjxx/202003/t20200312_11810778.html

精神の改造⁴⁴

2012年に権力を掌握した習近平は、チベット人、ウイグル人、モンゴル人を含む非漢人に対する政策を根本的に転換した。現在、中国共産党は、非漢人のアイデンティティを漢人のアイデンティティに作り替えようとしている。これにより、チベット、東トルキスタン（ウイグル）、南モンゴルにおける抵抗を抑え、中国共産党の統治を確固たるものにする事ができる。これは、習近平自身の発言から明らかである。

「中国への帰属意識を強化し、すべての民族が国家の安全と社会の安定を守ることによってのみ、過激主義、分裂主義思想の浸透を防ぐことができる。そして、すべての民族のすべての人がよりよい暮らしをするという願いを叶えることができる。⁴⁵」多くの漢人学者が提唱する「第二民族政策」（訳注：個々の民族のアイデンティティを軽視し、多数派民族である漢人のアイデンティティへの統合を目指す政策）に触発された習近平は、少ないながらも各民族の多様性・文化を尊重してきた過去のアプローチから大きな転換を図った。

習近平の変革政策は、非漢人に対する強権的、民族差別的なものである。民族政策学者ジェームズ・レイボルドは次のように述べている。

「中国当局が『後進的』、『逸脱している』、『本質的に危険』と見なす民族の思考、行動を積極的に変えるための政策です。中国当局は、これを『生活の質』の向上と呼んでいます。そして、非漢人を忠実で愛国的で文明的な中国人市民に生まれ変わらせようとしています。⁴⁶」

44 Leibold, James, "Beyond Xinjiang: Xi Jinping's Ethnic Crackdown," *The Diplomat*, January 7, 2021

45 Xinhua, "Xi Focus: Xi stresses high-quality development of Party's work on ethnic affairs," August 28, 2021, http://www.news.cn/english/2021-08/28/c_1310154568.htm (2021年11月3日アクセス)

46 Leibold, "Beyond Xinjiang."

学者グレー・タトルは次のように述べている。

「国境地域の統治を一元化することが中国の民族政策の狙いの根幹ではありますが、それは同時に、現代中国社会の中心に深く根差した民族差別、偏見が現れたものとも言えます⁴⁷」

他の民族を劣った後進的な非文明的な民族と見なす漢人の考え方は今に始まったものではない。そして劣った民族を文明化させるという名目で長きにわたり同化政策が行われてきた。

これに対する抗議、不満は抑え付けられてきた。しかし、習近平政策はこの民族差別的な政策を一段階高いレベルへと押し上げた。そして、様々な形で教育システムに手が増えられている。学校で使用される主要言語が中国語になり、他言語は蚊帳の外に置かれている。生徒には中国共産党のイデオロギーが注ぎ込まれている。

チベット語の教師は中国語の教師に取って代わられている。そして、社会の、地域の、家族の結びつきが失われている。

チベット人の子供を寄宿制学校に連行する中国政府の狙いは、チベット人を中国の文化・アイデンティティの枠組みに組み入れることである。そして、チベット人として重要なあらゆるものを抹殺することを目論んでいる。残るのは、名ばかりの「チベット人らしさ」だけである。

家族と引き離された子供たちは、自宅にいれば触れることができたであろうチベットの言葉、文化、宗教に日常的に触れることができなくなる。そして、学校で教え込まれる規範やイデオロギーに染まっていく。

自宅が学校近くにある場合、家族との面会を毎週末、あるいは、10日おきに学校が許可することもあるが、それ以外の家族が面会できるのは多くても1年に1回である（訳注：原著では特定のページを参照するようコメントがあるが、指定されたページの内容が対応していないため割愛した）。

47 Tuttle, Gray. "China's Race Problem." *Foreign Affairs* 94 (2015): 39

中国共産党思想、政治観は、寄宿制学校に多分に持ち込まれている。2018年、国務院は「民族の団結と統合を促進すること、幅広く使われる国語教育を教室内外で実施すること、以上2点に役立つ教育活動を積極的に行う⁴⁸」よう役人に命じ、寄宿制学校制度を強化した。

2015年に国務院が発表した「民族教育の加速と発展に関する決定」では、「プロパガンダを絶えず発信し、中国の夢へとつながる中国版の社会主義を教育する」ことが求められている。そして、「偉大なる祖国、中国文化、中国共産党、中国版社会主義に対する学生の認知を絶えず高めること」も求められている⁴⁹。

ジェームズ・レイボルドは、2019年、次のように述べている。

「学校は民族団結教育を行う『主戦場』です。愛国主義が教室に、教材に、子供の心に入り込んでいます。民族団結の種をあらゆる民族の子供の心に根付かせ、花開かせるためです⁵⁰」

学校生活の中心にあるもの、それが、このプロパガンダだ。

2000～2005年、小学生の頃に寄宿制学校で学んだ経験を持つあるチベット難民は、当時をこう振り返る。

「昼食が終わると、食堂でドキュメンタリー映画を見なければなりませんでした。それは、日中戦争の際の日本軍の破壊と暴力がいかに凄まじかったかについてのものでした。映画を見ない人が1人でもいれば、集団の罰として、夕食は与えられませんでした。歴史の授業で習ったの

48 News briefing by the Ministry of Education on the Document No. 27 issued by the State Council in 2018, "Quanmian jiaqiang lianglei xuexiao jianshe, tuidong chengxiang yiwu jiaoyu yitihua fazhan" [Comprehensively strengthen the construction of two types of schools and promote the integrated development of urban and rural compulsory education], June 30, 2018, https://zgsczcpjy.com/details_show?NEWS_ID=360df1f4d8954fdcbc055c7381aafbc8 (2021年7月5日アクセス) オンラインアーカイブ:https://zgsczcpjy.com/details_show?NEWS_ID=360df1f4d8954fdcbc055c7381aafbc8

49 Human Rights Watch, "China's 'Bilingual Education' Policy in Tibet," p. 65

50 Leibold, James. "Planting the seed: Ethnic policy in Xi Jinping's new era of cultural nationalism." China Brief 19, no. 22 (2019)

は、日本軍を打ち破った中国軍の偉業、万里の長城、中国の軍事、経済の素晴らしさについてでした。自分の国チベットについては何も習いませんでした。寄宿制学校で海外の国について学ぶことはありませんでした。私は、中国が祖国であり、日本人が私の人生最大の敵だと考えていました。⁵¹」

故郷から引き離されてこのような洗脳を受けた子供たちは、自民族の歴史、文化的ルーツ、そして、チベット人がチベット人たる要素との結びつきを失ってしまう可能性が極めて高い。

さらに、寄宿制学校では、自分たちの宗教に触れることもできない。中国は、宗教と教育を分離する政策をとっている。子供たちがキャンパスにいる間は、宗教体験は皆無である。このような宗教の禁止は文書にはほとんど記されていない。したがって文書を基に行われる研究では、宗教の禁止の実態は見逃されることになる。しかし、チベット人の子供たちが宗教活動を行うことを禁じている学校の管理者の行動は確かに存在する。

例えば、チベット自治区の寄宿制学校の校長は、主要な宗教の祝日に地元の宗教行事に参加しようと学外に出た学生を学校に連れ戻すための担当を置いていると述べた。⁵² また、ムリチベット族自治州のある教師は次のように述べている。

「宗教行事参加のために欠席を申し出る生徒に対しては、通常欠席は認めません。⁵³」

51 付録3の証言3

52 He Nengkun, "Xizang Nongmuqu jiaoyu tiaoshi yanjiu" [Adaptation of the Basic Education in Rural Tibet: An Empirical Study from the Perspective of the Social System Theory], (PhD Thesis, Southwest University, April 20, 2012), 94

53 Xu Jianhua, "Duo Minzu jisuzhi xuexiao zhong de minzu wenhua guanzhao wenti yanjiu-

チベットの子供たちが宗教活動を禁じられるのは学内に限った話ではない。例えば、ラサでは、学生は、公務員（退職者を含む）同様、ジョカン僧院への訪問を禁じられている⁵⁴。

ジョカン僧院は最も重要で聖なる僧院と考えられている。自宅からも宗教からも長期間引き離された子供たちは、チベット人の生活の基盤である仏教と文化の伝統にほとんど触れることができないまま成長していくことになる。

また、チベット語も中国政府から前例のない攻撃を受けている。攻撃の最大の標的が学校である。中国の欺瞞的な「バイリンガル政策」は、実際には、言語帝国主義とも呼べるもので、学校で使われる言語は中国語に一本化されている。チベット語は第二言語に降格させられているのだ。この政策は少数民族が成功するための手段だと謳われているが、これにより、チベット人の子供たちは若い段階で自身の言葉を失ってしまうことになる。

2021年1月、全国人民代表大会では、学校で各民族の言語の使用を認めることは、「中国の憲法と相容れない」とされた⁵⁵。そして、2021年7月、教育部は、2021年秋までに少数民族地域と地方の幼稚園（通常3～5歳）の教育を中国語で行うよう命じた⁵⁶。これらの政策は、チベット

jiyu Daliangshan Muli zangzu zizhixian de kaocha" [A Study on the Cultural Perspective in Multi-Ethnic Boarding School—Survey on Muli Tibetan Inhabited Areas] (MA Thesis, Southwest University, April 11, 2017), 29. 全引用は付録2参照

54 Tibet Watch, "Tibetans Blocked from Buddhist Site in Lhasa While Chinese Tourists Allowed In," August 7, 2020, <https://www.tibetwatch.org/news/2020/8/12/tibetans-blocked-from-buddhist-sites-in-lhasa-while-chinese-tourists-allowed-in> (2021年11月22日アクセス)

55 Human Rights Watch, "China Signals Roll-Back on Minority Languages," January 28, 2021, <https://www.hrw.org/news/2021/01/28/china-signals-roll-back-minority-languages> (2021年11月5日アクセス)

56 この政策は、チベット全土のみならず、ウイグル、南モンゴルを含むすべての「民族地域・地方」が対象だ。Ministry of Education, "Jiaoyubu bangongting guanyu shishi xueqian ertong putonghua jiaoyu 'tongyu tongyin' jihua de tongzhi" [Notice of the General Office of the Ministry of Education on the Implementation of the "Children's Homophony" Plan for Putonghua

語による教育を停止させるべく一部地域で行われた政策と同様のものだ。⁵⁷

寄宿制学校でも通学制学校でも中国語教育が広がり、チベット人の子供たちは自分たちの言語の運用能力を失っている。⁵⁸そして、自宅に戻っても、祖父母や両親と意思疎通がうまく取れなくなっている。⁵⁹

ラサ出身のあるチベット人は、ヒューマン・ライツ・ウォッチに次のように述べている。

「バイリンガル教育は、世代間の連続性を破壊しています。チベット語が堪能な旧世代とチベット語を知らない次の世代が生まれています。⁶⁰」

ほとんどの寄宿制学校の教育が中国語で行われている。東チベットのある小学校教師は、寄宿制学校が言語の喪失につながっている現状を次のように述べている。

「私の地域では、4歳以上の子供を寄宿制学校に送ることが義務付けられています。ほとんどの子供が遊牧民です。ほとんどの場合、チベット人教師はいません。大半の教師が漢人です。教師は中国語しか話しませんし、すべてのカリキュラムが中国語で行われます。童謡や寝る時の

Education for Preschool Children], July 23, 2021, http://www.moe.gov.cn/srcsite/A18/s3129/202108/t20210802_548318.html (2021年8月24日アクセス) オンラインアーカイブ:https://web.archive.org/web/20210910183948/http://www.moe.gov.cn/srcsite/A18/s3129/202108/t20210802_548318.html

57 Human Rights Watch, “China’s ‘Bilingual Education’ Policy in Tibet,” pp. 15-36; Radio Free Asia, “Tibetan Schoolchildren Lose Fluency in Native Language as Schools Switch to Mandarin,” April 16, 2020, <https://www.rfa.org/english/news/tibet/language-04162020170950.html> (2021年8月24日アクセス)

58 Human Rights Watch, “China’s ‘Bilingual Education’ Policy in Tibet.”

59 ある情報筋は、「中国が運営する学校に行けば、中国語と英語は上達するが、チベット語能力は低下する。チベット僧院が運営する学校に行けば、中国語、英語、チベット語のすべてが上達する。」と述べている。付録1の情報源3参照。また、以下も参照されたい。Human Rights Watch, “China’s ‘Bilingual Education’ Policy in Tibet,” pp. 31-32

60 Human Rights Watch, “China’s ‘Bilingual Education’ Policy in Tibet,” p. 119

読み聞かせも中国語です。7歳になって小学校に入学する頃には、ほとんどの子供たちはチベット語が話せなくなっています（語気を強める）。⁶¹」

寄宿制でない中国式の保育園もこの10年間急拡大している⁶²。中国人学者姚继军は、未就学児にバイリンガル教育を行う意図は、中国語をチベット人の子供たちに植え付けることだという。

「これは、チベットにおける（政治的抗議などの）不安定要素を消すための手段です⁶³」

チベット自治区では、教育に使われる主要言語は中国語と明確に規定されている⁶⁴。そして、小中学生に対しては国の標準中国語教科書を使うことが義務付けられている⁶⁵。教科書の内容は、中国人学生の生活（例えば、中国の伝統的な祝日など）を中心に展開されている。完全な中国式のカリキュラムにチベット人学生は悲鳴を上げている⁶⁶。

中国教育部が最近発表した計画では、これらの教科書はまもなく「習近平思想」、「中国の素晴らしい伝統文化」、「革命の伝統」、国家の安全

61 全コメントは付録1のオンラインコメント1参照

62 Human Rights Watch, "China's 'Bilingual Education' Policy in Tibet," pp. 41-47

63 Cited in Human Rights Watch, "China's 'Bilingual Education' Policy in Tibet," p. 6

64 TAR People's Government Office, "2019 nian Xizang zizhiqiu zhengfu gongzuo baogao" [2019 Tibet Autonomous Region Government Work Report], June 27, 2019, http://www.xizang.gov.cn/zwgk/xxfb/zfgzbg/201911/t20191114_123622.html (2021年8月24日アクセス) オンラインアーカイブ:https://web.archive.org/web/20200927102310/http://xizang.gov.cn/zwgk/xxfb/zfgzbg/201911/t20191114_123622.html

65 2018年秋、チベット自治区では「バイリンガル」カリキュラムが強化された。小学生及び中学1、2年生は、国が編集した教科書「道徳と法治」、「漢文」、「中国史」(中国名:《道德与法治》《语文》《历史》)を使うようになった。付録2参照

66 Yang Liu, "Ali diqu yiwu jiaoyu tongbian 'san ke' jiaocai shiyong qingkuang diaocha yu fenxi" [Investigation and Analysis of the Use of the Centralized Compiled "Three Subjects" Teaching Materials for Compulsory Education in Ngari Prefecture], Xizang Jiaoyu, 2020(9), pp. 5-8. 詳細は付録2参照

に特に重点を置くという⁶⁷。これにより中国共産党のイデオロギーの目標を前に進めることができるのだ。

中国語教育を大規模に推し進めることは、「少数民族」を模範的な中国人に作り変えるという習近平の決意を反映したものである。これには、大きな負の側面がある。家族の絆は弱まり、世代間の文化の伝承が困難になり、子供たちはアイデンティティと自尊心を失うことになる。

ヒューマン・ライツ・ウォッチのインタビューを受けたラサ出身のチベット人は、幼稚園で中国語教育を行う目的について次のように述べている。

「チベットの幼稚園児に中国語教育を行う政府の方針については広くアナウンスされておらず、明確ではありません。民族自治地域の特別条項とは関係がありません。憲法では、民族の宗教と文化を尊重することが謳われています。村に幼稚園をつくり、(若い子供に)中国語を教えることは、次の世代の人々の言語環境を変えることとなります。率直に言うと、チベットの世代間の言語の継承を妨害する攻撃的な政策です。この政策が成功してしまうと、チベットの宗教、文化、良心、アイデンティティが中国化された時代が訪れることは想像に難くありません⁶⁸」

中国政府の狙いがチベット語を根絶やしにすることに他ならないとチベット人は疑念を抱いている。非漢人の言語、文化に対する中国人教師の態度、教室外においてもチベット語ではなく中国語を使わせようとする姿勢により、この疑念はさらに強まっている。

チベット人が学ぶ寄宿制学校の中国人教師曹は研究の中で次のように

67 Guangming Daily, "Peigen zhuhun tigao kecheng jiaocai jianshe shuiping" [Fostering Roots and Casting Souls: Improving the Quality of Curriculum and Teaching Material Construction], August 25, 2021, <http://edu.people.com.cn/n1/2021/0825/c1006-32206845.html> (2021年8月25日アクセス) オンラインアーカイブ:<https://web.archive.org/web/20210825013518/http://edu.people.com.cn/n1/2021/0825/c1006-32206845.html>

68 Human Rights Watch, "China's 'Bilingual Education' Policy in Tibet," p. 47

述べている。

「第一に、学生生活に中国語を広げることが必要です。学生には教室の中でも外でも中国語を話すことを求めます。第二に、教師は、各家庭や地域社会に中国語を広めなければなりません。」

チベット人の生徒が週末に自宅に戻ることを認めない理由を曹に尋ねると、曹はこう語った。

「端的に言うと、“ $5+2=0$ ”ということです。週末の2日間自宅で両親と過ごせば、学校で5日間習ったことを忘れてしまいます。私たちはこれを恐れているのです⁶⁹」

中国の文化が優れていると考え、チベットの言語、文化の価値を暗に無視する姿勢が、中国の教師の間に共通して見られる⁷⁰。

「チベットの宗教、文化、良心、アイデンティティ」の変容が、中国共産党高官が策定した計画にそって行われている。この目的に特に有効なのが寄宿制学校である。家族や社会の影響下から子供たちを引き離し、四六時中国家の監視下に置くことができるからだ。

学校で使用する言語をチベット語から中国語に変え、中国への愛国心、中国共産党への忠誠を徹底的に教え込むべく、寄宿制学校は様々なツール、戦術、戦略を使っている。そして、チベットの子供たちの精神を作り変えていくのだ。

69 Yang, "Hybridity and Tibetan language education policies in Sichuan," p. 10

70 例え、Yang, Miaoyan. "Moralities and contradictories in the educational aid for Tibet: contesting the multi-layered saviour complex." *Journal of Multilingual and Multicultural Development* 41, no. 7 (2020): 620-632

脅迫された両親が迫られる「選択」

複数の要因により、チベット人の両親は子供を寄宿制学校に送ることを余儀なくされている。急速に変化する世界の中で通用する質の高い教育を子供に受けさせることを両親は望んでいる。伝統的なチベット人の生活様式は、貨幣経済、都市に取って代わられている。そのような中、雇用やサービスにおいてチベット人は民族差別を受け、不利な立場に置かれている。

中国政府は学校統合政策を推し進め、チベット人は小学生でさえ、寄宿制学校で学んでいる。かつてのチベットの両親は、子供を僧院の学校に通わせていた。私立学校に通わせたり、インドに亡命させて勉強させた両親もいた。しかしながら、これらの過去のやり方は着実に葬り去られつつある⁷¹。このような中、現実的な代替案を見出せないチベット人の両親は、子供を寄宿制学校へと送ることになる。

同時に、より直接的な強制も存在する。チベット人から得た証言によると、寄宿制学校に子供を送らない場合、罰金などの罰則があるという。また、完全なる脅迫が行われるケースもある。チベット人が植民地主義的な脅迫を伴う政治環境下に生きていることは、無視することができない重要な事実だ。個人的な決定にまで国家の手が及ぶのだ。

チベット人、ウイグル人などに均一な中国人としてのアイデンティティを強いる習近平の姿勢は、チベット人であること自体が犯罪であると言っているに等しい。例えば、人気の動画投稿アプリTik-Tokや快手

71 例えば、Tibet Watch, “Tibetan Monks Holding Classes for Children will be Punished, China Warns,” February 26, 2019, <https://www.tibetwatch.org/news/2019/6/17/tibetan-monks-holding-classes-for-children-will-be-punished-china-warns> (2021年11月28日アクセス) Radio Free Asia, “Tibetan Private Language Schools Closed Down in Sichuan,” June 3, 2021, <https://www.rfa.org/english/news/tibet/schools-06032021165545.html> (2021年8月28日アクセス) “China Closes Tibetan School in Qinghai, Leaving Many Students Adrift,” September 14, 2021, <https://www.rfa.org/english/news/tibet/school-09142021135447.html> (2021年11月20日アクセス)

では、チベット語でのライブストリーミングは認められていない⁷²。言語保存を目的とした団体、チャットグループが攻撃の標的になっている⁷³。チベット語教育を擁護すると処罰され、投獄される⁷⁴。チベット人の日常の活動や会話は、オンライン・オフラインを問わず、絶えず国家により監視されている。

かつては中国共産党の監視から逃れることができたわずかな時間も今ではほとんどなくなった。寄宿制学校の体制そのもの、あるいは、その代替手段がないことに抗議しても重罪になるだけだとチベット人は気付いている。チベット人が自発的に抗議を控えるこのような状況下では、ある意味で、当局はチベット人に対し、寄宿制学校に抗議しないよう脅迫を行う必要がないとも言える。

21世紀に入り、国家が助成する学校に対するチベット人の両親の考えは変化してきた。当初は政府の学校の価値や学校の意図に疑念を抱いていたが⁷⁵、現在では、急速に変化する世界の中で生き抜くには子供には教育が必要だと考えている。

72 最近、他の動画配信アプリ、言語学習アプリからも削除された。Protocol, "Chinese tech companies appear to censor Uyghur and Tibetan," November 8, 2021, <https://www.protocol.com/china/bilibili-talkmate-uyghur-tibetan-tech> (2021年11月17日アクセス)

73 例えば、最近では、ザ・ウォンポのケースがある。Tibet Watch, "Over 100 Tibetan detainees released in Dza Wonpo after month-long torture and interrogation," October 5, 2021, <https://www.tibetwatch.org/news/2021/10/5/over-100-tibetan-detainees-released-in-dza-wonpo-after-month-long-torture-and-interrogation> (2021年11月19日アクセス)

74 例えば、Human Rights Watch, "China: Activist Convicted for Promoting Tibetan Language," May 22, 2018, <https://www.hrw.org/news/2018/05/23/china-activist-convicted-promoting-tibetan-language> (2021年11月19日アクセス) Tibet Watch, "Two Tibetan youngsters detained for chat group in Tibetan language," September 9, 2021, <https://www.tibetwatch.org/news/2021/9/9/two-tibetan-youngsters-detained-for-chat-group-conversation-in-tibetan-language> (2021年11月19日アクセス) Tibet Watch, "Teenage Tibetan petitioner arrested in Ngaba by Chinese police authorities," August 18, 2021, <https://www.tibetwatch.org/news/2021/8/18/teenage-tibetan-petitioner-arrested-in-ngaba-chinese-police-authorities> (2021年11月19日アクセス)

75 Gyal, "I am concerned with the future of my children," pp. 16-18; Postiglione, Gerard, Ben Jiao, and Li Xiaoliang, "Education change and development in nomadic communities of the Tibetan Autonomous Region (TAR)," *International Journal of Chinese Education* 1, no. 1 (2012): 93-96

1990年代半ばから、チベット人は様々な国策の影響を受けた。草原に暮らす農民や遊牧人は都市に定住させられ、仕事は、草原での仕事から季節労働へと変わった。その結果、政府の助成金なしでは生活できないほど困窮することとなった。⁷⁶

ファツェ・ギャルは、四川省ンガバに暮らす夫婦の苦境を紹介している。

「貨幣経済が幅を利かすこの時代に、（政府の政策により）伝統的な集団放牧は現実的ではなくなりました。自分ではコントロールできないほど生活様式が変化していることに村人たちは急速に気が始めています。ほとんどの両親がこう言います。『子供の未来が心配だ。』両親は子供の未来のために別の生活の糧を探すことを余儀なくされます。子供が政府の役人になることを夢見て子供を学校に送るのも一つの選択肢です⁷⁷」

教育が必要なのに望ましい学校がないことを証言してくれたチベット人の親もいる。

「一人息子は7歳の時に、国が運営する寄宿制学校に送られました。適切な教育を受けなければ、息子がいい人生を送るのは難しいと、当時の妻と私は強く信じていました。ですので、憂鬱な気持ちになりながらも決断を下さざるをえませんでした。並行して、同様の困難に直面している家族や政府の役人とも話しましたが、こうした努力はすべて無駄でした。⁷⁸」

寄宿制の小学校が両親にとって不都合な状況を生み出していると語るチベット人もいる。

76 アンドリュー・フィッシャーは、これらの国家発展政策が、貧困率と非識字率の高さと相まって、チベット人に対する教育、経済、政治的不平等を生み出し、その結果、チベット人はますます社会の中で疎外感を感じるようになったと指摘する。(Fischer, p. 5)

77 Gyal, "I am concerned with the future of my children," p. 22

78 付録1の情報5

「以前と比べて、寄宿制学校への入学年齢は若くなりました。1つの理由は、それが（政府の）公立学校の規制の一部だからだと思われます。別の角度から見れば、今日の競争社会の一部と言えます。幼少期に子供を学校に送らなければ、社会から取り残される懸念があります。いずれにせよ、私たちにとって、いいことではありません。⁷⁹⁾」

チベット人が教育の機会を求める際、学校統合政策は子供を寄宿制学校に送る決定的因子となってきた。チベット人研究者ツェリン・ブムは、青海省のある地域では、医療と教育が街にしかないと述べている。

「中国には、2つの教育政策があります。それは、義務教育が9年であること、そして、地方の学校は閉鎖され統合されなければならないことです。これにより、遊牧民は罰金を科されるのを恐れて草原を捨てるのです。また、子供を寄宿制学校に送らないと、政府の金銭・物資支援が得られない点も問題です。⁸⁰⁾」

実際、東チベットでは、子供に教育を受けさせるため、そして、子供の近くで暮らすために、遊牧民は再定住プロジェクトに参加し、都市へと移り住んでいる。⁸¹⁾

今日激しい弾圧に見舞われているチベットでは、国家の決定・政策に異を唱え、抵抗する余地はない。子供にふさわしい教育を求める自由もない。中国の統治下でチベット人が集団行動をとることは常に危険を伴い、習近平政権下では考えられないことである。

79 付録1のオンラインコメント2

80 Bum, Tsering. "Translating ecological migration policy: a conjunctural analysis of Tibetan pastoralist resettlement in China." *Critical Asian Studies* 50, no. 4 (2018): 3-4

81 Elisa Cencetti, "New Settlements on the Tibetan Plateau of Amdo-Qinghai: Spatialized Power Devices," in *On the Fringes of the Harmonious Society: Tibetans and Uyghurs in Socialist China*, ed. Trine Brox and Ildiko Beller-Hann, (Copenhagen: NIAS Press, 2013) 159-182

子供を寄宿制学校に送ることを拒否しようとした親は様々な脅迫を受けている。アムドのある親は次のように述べている。

「4、5歳の子供が親から離れたくないことはわかっています。しかし、彼らは寄宿制学校に行かなければならないのです。何日間も泣き、母親の膝にしがみつき、学校に行きたくないと言うケースもあります。学校に行かせるような親の元には戻って来たくないと言うケースすらあります。子供にとっても親にとっても気乗りがしないのです⁸²」

小学1～3年生を寄宿制学校に送ることを拒否した村は圧力と脅迫を受けたと回想するチベット人もいる。役人が何度もやって来たというが、そのうちの1回は次の通りである。

町のトップ2人、県の教育のトップ1人、警察6人がやって来ました。彼らはこう言いました。

「明日もまた来なければならぬとすれば、それはよくないことだ。WeChatで話し合いをしていただろう。すべて盗聴していた。私たちの言うことを聞かなければ、1人ずつ圧力をかける。たやすいことだ。」

「この政策に従わず、子供を学校に送らないのであれば、抗議活動を行っていると考えます。私たちの県の教育プロジェクトは、省の方針である。言うことを聞かないのであれば、すべての将来がダメになる。その責任はお前たちにある⁸³」

Radio Free Asiaは、2020年9月、東チベットのレブコンでの件を報じている。

「現地の小学校が政府の命令で閉鎖された。子供たちは親の意志に反

82 付録1の情報1

83 付録1の情報2

して遠くの寄宿制学校に送られている。」

「他の地域の学校に子供たちを通わせることにより親子を引き離さないでほしいとチベット人の親は役人に懇願した。役人は懇願を聞き入れず、何人かのチベット人が抗議を始めた。この抗議は警察により鎮圧された。警察車両がサイレンを鳴らしながら現場にやって来た。そして、男性1人が拘束され、その後、釈放された。子供たちの両親は、最終的に、中国政府が運営する寄宿制学校に子供を送ることを余儀なくされた⁸⁴。」

同様に、Tibet Watch は、2021年9月、ゴロクチベット自治州マトで、地震の後、1,216人の子供達が、西寧、ゴロク、ゾガン・ラウォルの寄宿制学校に送られたと報じた。

「中国当局が開いたミーティングで、政府による子供の寄宿制学校入学提案を受け入れる場合は手を上げるよう親は指示された。、両親に拒否する術は残されていなかった⁸⁵。」

子供を寄宿制の幼稚園に送らない場合、小学校入学を認めないと言われた家族もいる。さらに、罰金が科されたり、他の子供も学校に送ることはできないと脅迫されたりした家族もいる。

「子供が4歳になったら寄宿制学校に送らなければならないと役人は言います。これを拒否した場合、罰金が科されるとのことです。第1子を寄宿制学校に送らない場合、第2子、第3子の入学を認めないと役人は言います。様々なやり方で、役人は家族を従わせようとします。そし

84 Radio Free Asia, “Tibetan School Year Begins Under New Restrictions, Mandarin-only Instruction,” September 12, 2020, <https://www.rfa.org/english/news/tibet/school-09122020104223.html> (2021年7月5日アクセス)

85 Tibet Watch, “Survivors of Earthquake under Surveillance and Uncertainty,” September 20, 2021, <https://www.tibetwatch.org/news/2021/9/30/survivors-of-earthquake-under-surveillance-and-uncertainty> (2021年11月5日アクセス)

て、恐怖から、親は子供を寄宿制学校に送ることになるのです⁸⁶」

これらの報告、証言により、チベット人の親が子供を寄宿制学校に通わせざるを得ない圧倒的圧力の存在が明らかになった。

この圧力には様々なものがある。第1に、体系的な民族差別、劇的な社会・経済環境の変化の中で生きる子供達の未来への不安がある、第2に、直接的な強迫がある。そして、第3に、他の教育手段が絶望的に不足していること、他の手段が国家によって消されていることへの無力感がある。

結局のところ、中国当局が生み出したシステムにより、チベット人の親には、子供を寄宿制学校に送る以外の手段がないのである。

「4分の3」 植民地的寄宿制学校に連行される子供たちの割合

前章までに述べたような政策により、チベットの教育はほぼ完全に寄宿制学校へと移行している。公式データから計算すると、1,039,370人のチベット人学生のうち少なくとも806,218人が寄宿制学校で学んでいることになる⁸⁷。この数字は、6～18歳の学生の78%に相当する⁸⁸。

衝撃的な数字であるが、さらに衝撃的なのが、この数字が控えめに算出された数字であることだ（詳細は下記）。実際に寄宿制学校で学んでいるチベット人学生の人数は、900,000に近いと思われる。

先述の通り、中国の公式統計は、目標や割り当てを満たすために改ざんされる。そのため、公式統計を完全に信用することはできない。しかしながら、これらの数字の規模を見ることで、完全に正確ではないにしろ、チベットにおける寄宿制学校の規模を知ることができる。

かつてのカナダでは、先住民の子供の最大3分の1が寄宿制学校に入れられていた⁸⁹。寄宿制学校が先住民社会に与えた損害と世代を超えたトラウマを考えると、中国が行っている寄宿制学校がチベット人に世代を超えて与える損害の規模を想像することは難しいことではない。

寄宿制学校で学ぶチベット人学生の数に関する統計を見つけるのは困難である。寄宿制学校については中国国営メディアで「人生を変える」恩恵があると報道されているが⁹⁰、チベット人の学生数に関する情報は

87 40ページの表及び注98～106参照

88 40ページの表参照（訳注:原著では別ページの表を参照するよう記されていたが、そのページに表がないため、40ページの表のことだと思われる）

89 National Centre for Truth and Reconciliation, University of Manitoba, <https://web.archive.org/web/20160420012021/http://umanitoba.ca/centres/nctr/overview.html>（2021年7月5日アクセス）

90 例えば、CGTN, “A day in the life of a Tibetan high schooler,” April 1, 2019, <https://news.>

見つけることができなかった。チベットが様々な行政区に分割されていることもデータ収集を困難にした。中国の行政区に取り込まれているチベット人居住地域も多い。

このような理由から、私たちは806,218という数字に次のようにして辿り着いた。

- 1) 人口に占めるチベット人の割合⁹¹に当地の学生数を乗じることに
より、当地のチベット人学生の総数を推定した。
- 2) 寄宿制学校で学んでいると報告されている学生の割合を調査した。
- 3) 寄宿制学校の学生の割合をチベット人学生数に乗じた。

詳細な情報源とそれぞれの数字を導き出すステップの詳細については、表とそれに対応する注に示してある。

表に示されている推定値が少ないと思われる理由がいくつかある。最も重要な点は、チベット自治区内外の寄宿制学校で学んでいるチベット人学生の割合を、同地域の寄宿制学校で学んでいる漢人の割合と同じとした点である。しかしながら、寄宿制学校は漢人ではなくチベット人を標的にしたものである。

また、チベット在住の漢人は都市に集中しているのに対し、学校統合政策は地方部で行われている。食糧、授業料、住居を学生に提供するチベット自治区の「3つの保証」政策⁹²などと同様、学校統合政策の対象

cgtn.com/news/3d3d514e79557a4e33457a6333566d54/index.html (2021年11月25日アクセス)
Xinhua, “#ProsperityOnThePlateau: Free education for 15 years from pre-school to high school,” December 12, 2020, http://www.xinhuanet.com/english/2020-12/02/c_139558901.htm (2021年11月25日アクセス)

91 2020年の国勢調査で、チベット自治区の民族割合のデータが発表されたが、他地域のデータは入手できなかった。そのため、チベット自治区については2020年のデータを、青海省については2010年のデータを使用した。四川省、甘肅省、雲南省については、地方当局が発行している統計資料を使用した。

92 China Tibet News, “Xizang quanmian shixian 15 nian mianfei jiaoyu jinnian yi luoshi zijin chao 5 yi yuan” [Tibet fully realizes 15 years of free education: Over 500 million yuan have been invested this year], https://www.xzdw.gov.cn/xxz/whjy/201808/t20180808_48102.html (2021年10月22日アクセス) オンラインアーカイブ:<https://web.archive.org/>

の大部分はチベット人である⁹³。他の情報筋も、寄宿制学校プログラムは、「地方部」、「草原地帯」で行われていると述べている⁹⁴。

これらが意味するのは、寄宿制学校で学んでいるチベット人の割合は、漢人よりも高いということである。

また、チベット人の学生の総数も過小評価されていると思われる。チベット人の出生率は漢人よりも高いからだ。民族別の学生の割合は、チベット人の方が漢人よりも高いと思われる。

さらに、寄宿制学校に関するデータのほとんどが数年前のものである。しかし、近年、寄宿制学校は拡大を続けている。データが入手できない期間に、村の学校の閉鎖、寄宿制学校の生徒数の増大が起きているであろう。

最後に、青海省とチベット自治区においては、4、5歳の子供が寄宿制学校で学んでいるという報告がある⁹⁵。この数字は、上記の数字に含まれていないことに注意されたい。

web/20211122145221/https://www.xzdw.gov.cn/xxz/whjy/201808/t20180808_48102.html

93 例えば、アンドリュー・フィッシャーは次のように述べている。「チベットでは、とりわけ構造的な偏りが見られる。概して、最も教育を受けたチベット人（都市部在住のチベット人男性）ですら、最も教育を受けていない漢人のチベット流入者（四川省の地方出身の漢人女性）より教育水準が低い。」（Fischer, p. 5）

94 Kardze Tibetan Autonomous Prefecture, "Shisan wu' qi wozhou jiaoyu shiye gaige fazhan jishi" [Report on the reform and development of education in our prefecture during the "13th Five-Year Plan" period], December 15, 2020, <http://www.gzz.gov.cn/gzzrmzf/c101413/202012/50e4339996fe4d92917721f69d0e40ae.shtml> (2021年7月5日アクセス) オンライン・アーカイブ: <https://web.archive.org/web/20210913134626/http://www.gzz.gov.cn/gzzrmzf/c101413/202012/50e4339996fe4d92917721f69d0e40ae.shtml>

95 付録1の情報1およびオンラインコメント1、付録3の証言2

寄宿制学校で学ぶ6～18歳のチベット人の子供の数

寄宿制学校で学ぶ6～18歳のチベット人の子供の数

(数字は最低限の見積もりで、実際の数字はより大きいと考えられる)

場所	年	チベット人の 学生数	寄宿制学校で学ぶ チベット人学生の 総数	割合 [%]
チベット自治区	2019	521,715	423,801 ⁹⁶	81
青海省 (ツォジャン、 ツォロ、マロ、ゴロク、 ツォヌブ、ユルシュ ルを含む)	2019	215,027	166,935 ⁹⁷	78
四川省	2016～2019	220,370	170,565	77
ンガバ	2019	64,065	47,467 ⁹⁸	74
カルゼ	2019	149,027	118,116 ⁹⁹	79
ムリ	2016	7,278	4,982 ¹⁰⁰	68
甘肅省	2019～2020	64,840	36,730	57
カンロ	2020	58,901	33,456 ¹⁰¹	57
バイリ	2019	5,939 ¹⁰²	3,274	55
雲南省 (デチエンを含む)	2020	17,418	8,187 ¹⁰³	47
計		1,039,370 ¹⁰⁴	806,218	78

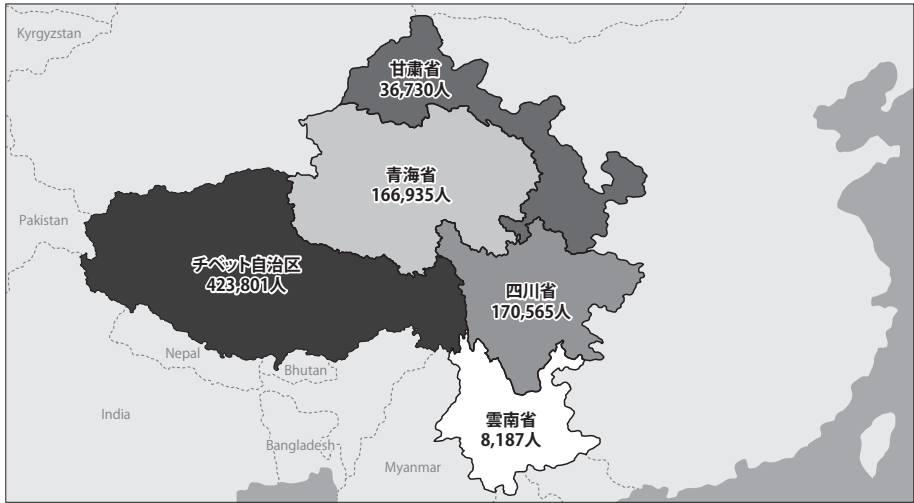
96 2017年度の初めの段階で、当地の79.8%の小学生、80.5%の中学生が寄宿制学校で学んでいた(訳注:チベット自治区内の「全民族」の小中学生の数字)。(情報源:Department of Education of the Tibet Autonomous Region, “Xizang zizhiqu jiaoyu shiyi tongji ziliao (jichu jiaoyu)” [Statistics on Education in the Tibet Autonomous Region (Basic Education)], 2018, pp.166-172)

高校生の割合に関する情報は提供されていない。チベット自治区の寄宿制学校で学ぶチベット人全学生数を算出するために、まず、上記の2017年度の寄宿制学校で学ぶ小中学生の割合を2019年度のチベット自治区の小中学生の数に乘じた(480,760人中384,625人が寄宿制学校に通っていると算出された)。この数字に、チベット自治区のチベット人の割合(86.02%)を乗じることにより、寄宿制学校に通うチベット人学生数330,854人を得た。2019年の数字の情報源:2019 Educational Statistics Yearbook of China, “Part I: The Development of the Educational Undertaking,” December 2020

上記情報源から、全学生数(小学校、中学校、高校、職業学校)に通う全学生数は、571,662人であるという数字を得た。高校生、職業訓練学生については、寄宿制学校で学ぶ学生の割合は中学生と同じ(80.5%)と仮定し、90,902人中73,176人が寄宿制学校で学んでいると算出した。この数字にチベット自治区のチベット人の割合(86.02%)を乗じることにより、少なくとも62,945人のチベット人高校生、職業訓練

地域ごとの寄宿制学校の学生数

次の地図は、チベットにおける寄宿制学校の学生数の分布を示している。



学生が寄宿制学校で学んでいると算出した。(これは控えめな推計である。寄宿制学校で学ぶ高校生の割合は他の学校よりも高いからだ。2017年にチベット自治区人民政府は、高校生は都市に集中し、集中的に管理されるべきと述べている。情報源: People's Government of the Tibet Autonomous Region, "Zang zheng fa (2017) 18 hao 'Xizang zizhi qu renmin zhengfu guanyu tongchou tuijin xianyunfei chengxiang yiwujiaoyu yitihua gaige fazhan de shishi yijian" [Document No. 18 (2017): Implementation Opinions of the People's Government of the Tibet Autonomous Region on Promoting the Integrated Reform and Development of Urban and Rural Compulsory Education in the Counties], August 2, 2017, <https://www.waizi.org.cn/policy/22960.html> (2021年7月5日アクセス) オンラインアーカイブ: <https://web.archive.org/web/20210913092605/https://www.waizi.org.cn/policy/22960.html>)

最後に、チベット自治区内地プログラムに参加する学生数30,000人を加えた。この数字には、高卒以上の学生が含まれているが、高卒以上の人の数は不明である。(情報源: TAR CPC Committee, "Xizang quanmian shixian 15 nian mianfei jiaoyu jinnian yi luoshi zijin chao 5 yi yuan" [Tibet has fully realized 15 years of free education, this year alone more than 500 million yuan in funds implemented], August 8, 2018, https://www.xzdw.gov.cn/xxz/whjy/201808/t20180808_48102.html (2021年7月6日アクセス) オンラインアーカイブ: https://web.archive.org/web/20210913092723/https://www.xzdw.gov.cn/xxz/whjy/201808/t20180808_48102.html)

- 97 まず、以下の数字を入手した。「寄宿制学校に通う中高生と小学生の割合は、それぞれ85.98%、72.53%である。寄宿制学校に通う学生の低年齢化が進んでいる。」(Cun-fang, Ma "Qinghai zangqu jisuzhi xuesheng qingxu zhili yu xinli jiankang guanxi yanjiu" [Study of the Relationship Between Qinghai Tibetan Boarding Students' Emotional Intelligence and Mental Health], Journal of Qinghai Normal University (Philosophy and Social Sciences) 39, no. 4 (July 2017): 5) 上記数字を青海省の6つのチベット自治州の全学生数に乗じた。(全学生のデータの情報源: Qinghai Statistical Yearbook 2020, "18-5 Basic Statistics on Primary Schools in Main Years" in Ch.18, Education, Science and Technology, August 2020, p. 451, and "18-4 Basic Statistics

on Regular Secondary Schools in Main Years”, p. 450). このようにして得られた数字に、2010年国勢調査記載の他のチベット人の割合を乗じた。

- 98 2020年7月9日、ンガバ教育局が、ンガバに281の寄宿制学校(小学校から高校まで)があり、79,790人の小中学生(全小中学生の73.53%に相当)が寄宿制学校で学んでいるとインターネットに投稿している。このうち40,721人が小学生、25,252人が中学生、13,663人が高校生、154人が特殊学校生であるという。(情報源:<https://ly.scol.com.cn/thread?tid=2811516&display=1&typeid=5&act=type&page=1> (2021年7月5日アクセス) オンラインアーカイブ:<https://web.archive.org/web/20210913093023/https://ly.scol.com.cn/thread?tid=2811516&display=1&typeid=5&act=type&page=1>) 2019年のンガバ統計資料によると、ンガバの全学生数は107,690人である。同資料には、ンガバのチベット人の割合は59.49%とも記載されている。(情報源:Ngaba Tibetan and Qiang Autonomous Prefecture 2019 National Economic and Social Development Statistical Bulletin, April 23, 2020, <https://tjj.abazhou.gov.cn/abtjj/c103833/202004/400e620e8cc84c19dff973f0d8e97bf.shtml> (2021年7月5日アクセス) オンラインアーカイブ: https://web.archive.org/web/20211122141234/https://m.ahmhc.com/tongjigongbao/18355_5.html)
- 99 カルゼチベット自治州の寄宿制学校の学生数の情報源:“Shisan wu' qi wozhou jiaoyu shiye gaige fazhan jishi” [Report on the reform and development of education in our prefecture during the "13th Five-Year Plan" period], December 15, 2020, <http://www.gzz.gov.cn/gzzrmzf/c101413/202012/50e4339996fe4d92917721f69d0e40ae.shtml> (2021年7月5日アクセス) オンラインアーカイブ: <https://web.archive.org/web/20210913134626/http://www.gzz.gov.cn/gzzrmzf/c101413/202012/50e4339996fe4d92917721f69d0e40ae.shtml>. 2020年カルゼ統計年鑑によると、カルゼのチベット人の割合は83.77%で、小学生から高校生の人口は178,056人であるという。(情報源:2020 Ganzhi Statistical Yearbook, p. 212 and p. 448)
- 100 ムリ県は、2,551万元を寄宿制学校の手当てに支給し、15,006人の学生を支援している。(情報源: Muli County Government Office, “Mulixian 2016 nian guomin jingji he shehui fazhan tongji gongbao” [2016 Statistical Communiqué on National Economic and Social Development of Muli County], March 20, 2017) 最新の統計によると、ムリ県に占めるチベット人の割合は、33.2%であるという。(情報源:Muli County Government Office, “Muli zangzu zizhixian jiben qingkuang” [Basic situation of Muli Tibetan Autonomous County], January 1, 2021, www.muli.gov.cn/zjml/rsml/201511/t20151104_762361.html (2021年7月5日アクセス) オンラインアーカイブ:https://web.archive.org/web/20210119210444/http://www.muli.gov.cn/zjml/rsml/201511/t20151104_762361.html) 以上より、寄宿制学校で学ぶチベット人学生は、4,982人と算出された。
- 101 カンロ州統計局によると、全学生115,499人中51%にあたる59,801人が寄宿制学校で学んでいるという。同統計によると、州の人口中のチベット人の割合は56.8%であるという。(情報源:Gannan Tibetan Autonomous Prefecture's 2020 National Economic and Social Development Statistical Communiqué, April 9, 2021, <http://tjj.gnzhmzf.gov.cn/info/1194/5660.htm> (2021年10月26日アクセス) オンラインアーカイブ: <https://web.archive.org/web/20211026042220/http://tjj.gnzhmzf.gov.cn/info/1194/5660.htm>)
- 102 2020年12月、バイリ県のチベット人の割合は30.31%であった。(情報源:Tianzhu zangzu zizhixian” [Tianzhu Tibetan Autonomous County], Baidu Baike, <https://baike.baidu.com/item/%E5%A4%A9%E7%A5%9E8%97%8F%E6%97%8F%E8%87%AA%E6%B2%BB%E5%8E%BF/8746531> (2021年7月8日アクセス) オンラインアーカイブ:<https://web.archive.org/web/20210913141659/https://baike.baidu.com/item/%E5%A4%A9%E7%A5%9D%E8%97%8F%E6%97%8F%E8%87%AA%E6%B2%BB%E5%8E%BF/8746531>). 公式データによると、2019年におけるバイリ県の小学校から高校の学生数は、19,593人であるという。(情報源:“2019 Tianzhu zangzu zizhixian guomin jingji he shehui fazhan tongji gongbao” [Statistical Communiqué on the National Economic and Social Development of Tianzhu Tibetan Autonomous County in 2019], June 8, 2020, http://www.gstianzhu.gov.cn/xxgk/xzfgbmxgk/tjj/gkml_1354/qtxx_1360/202007/t20200701_1200000.html (2021年7月8日アクセス) オンラインアーカイブ:<https://web.archive.org/web/20210913142332/http://www.gstianzhu.gov.cn/xxgk/xzfgbmxgk/>)

tjj/gkml_1354/ qtxx_1360/202007/t20200701_1200000.html). 以上から、チベット人の学生数は5,939人と見積られる。バイリ県政府によると、2011年時点では、55.12%の学生が寄宿制学校で学んでいたという。(情報源:Tianzhu County Government Office, June 3, 2016, <https://www.jaoixu.com/20160603/4467355.html> (2021年11月21日アクセス) オンラインアーカイブ:<https://web.archive.org/web/20211122120536/https://www.jaoixu.com/20160603/4467355.html>) 2011年の割合を2019年の学生数に乗じることにより、寄宿制学校で学んでいる学生数を推定した。

- 103 2020年、デチェンの総人口に占めるチベット人の割合は36.18%であった。また、2019年時点で、雲南省の学生の47%が寄宿制学校で学んでいた。(情報源:Department of Education of Yunnan Province, “Yunnansheng 2019/2020 xuenianchu quansheng jiaoyu shiye fazhan tongji gongbao” [Statistical Bulletin of Yunnan Province’s Educational Development at the beginning of the 2019/2020 school year], March 25, 2020, <https://jyt.yn.gov.cn/web/ac1f1eb64e6d4e36999869a47598935d/9d03708b61fc4b6b982355b4e1d8b8fd.html> (2021年5月28日アクセス) オンラインアーカイブ:<https://web.archive.org/web/20210913142954/https://jyt.yn.gov.cn/web/ac1f1eb64e6d4e36999869a47598935d/9d03708b61fc4b6b982355b4e1d8b8fd.htm>) これらの割合をデチェンの総学生数に乗じることにより、寄宿制学校で学ぶチベット人の数を8,187人と見積もった。

(注) 47%は雲南省全体の数字である。チベット人や少数民族の学生が寄宿制学校に通う割合は全体平均よりも高い傾向にある。

- 104 この数字は、西寧、成都、北京などのチベット人学生数を含んでいない。

植民地的寄宿制学校の影響

寄宿制学校での暮らしが世代を超えた深刻で長期的な損害をもたらすことを多くの研究が示している。¹⁰⁵チベットでは中国当局による厳格な統制が行われており、チベット人の経験のすべてを評価することはできない。しかしながら、チベットで寄宿制学校に通った経験を持ち、現在は亡命先で暮らす人々の証言は手に入る。

その証言によると、寄宿制学校では、深刻な喪失感と虐待を経験したという。チベットや中国の研究者も今日の寄宿制学校では精神的苦痛を味わう割合が高いと述べている。つまり、学生は長期的な悪影響に苦しむことになるのだ。

現在の植民地的寄宿制学校へとつながる初期の寄宿制学校で学んだことのあるチベット人は、インタビューで、家族から引き離されること、虐め、教師による暴力、厳しいカリキュラム、不衛生な生活環境による精神的苦痛を証言している。¹⁰⁶

7歳の時に寄宿制学校に入学した生徒は、制服が1着しかなかったと語る。そのため、教師は彼を含む複数の生徒に悪臭がすると言って、話しかけようとしなかったという。彼は、当時の困難および現在に与える影響を次のように証言している。

「私が受けた虐め……、上級生は恐怖でした……。両親は高齢で学校には来れませんでした。兄弟姉妹も忙しい状況でした。この経験は私の心に大きな傷を残しました。私は1人の人間として、(寄宿制学校の)悪影響を受けたようです。家族は私を見ると、私が中国人になったよう

105 例えば、カナダでは、寄宿制学校の長期的影響には「健康問題、虐待、死亡率／自殺率の高さ、犯罪行為、家族や社会との不和」のような問題があるとパブリック・ヘルスの研究がある。この研究によると、寄宿制学校の影響は、個人を超えて集団的になるという。(情報源:Wilk, Piotr, Alana Maltby, and Martin Cooke. "Residential schools and the effects on Indigenous health and well-being in Canada—a scoping review." *Public health reviews* 38, no. 1 (2017): 2.)

106 付録3

だと言っていました。^{107]}

ある女性は、中学校3年間に受けた虐待と恐怖について次のように証言している。

「私の寮では、レイプ、セクハラ、暴力、虐め、窃盗が横行していました。夜には様々な男の人が女子寮に侵入していました。男の人が侵入してくるのは日常茶飯事で、学校関係者でない男の人もありました。漢人男性教師が女子の部屋に侵入し、レイプ、セクハラをすることも多々ありました。昼も夜も安全を感じたことはありません。絶えず恐怖を感じていました。当時、寮にいた女子のほとんどは、11～13歳でした。私たちが素直に従わないと、平手打ちをされ、蹴られました。私はよく漢人男性教師に職員室に呼び出され、不適切に体を触られ、セクハラされました。どのようにしてその状況を耐えたのか、今になってもわかりません。当時、母はすでに他界していました。私は当時の自分の状況を誰にも言うことができませんでした。

体罰も想像を絶していました。教師は怒ると、椅子、鉄の棒などありとあらゆるものを使って、生徒が出血するまで殴り続けました。暴力はとて激しく、日常的で、みな絶えず恐怖を感じていました。寄宿制学校での3年間は悪夢以外の何物でもありません。肉体的、精神的な苦痛を味わい、疲れ果てました。学ぶ喜び、教育の意味というものを感じたことはありません。私はただただ生きていました。大きなトラウマでした。どうやって虐め、暴行、セクハラ、空腹から逃れるか、それだけを考えていました。^{108]}

このような証言は、学生が抱え続ける肉体的、精神的ストレス、トラウマを如実に表すものである。

107 付録3証言3

108 付録3証言1

1990年代後半に寄宿制学校で学んだチベット人研究者ファツェ・ギャルは劣等感を抱いていたという。

「教育以外に、学校にはより大きなミッションがありました。私たちの価値観、精神を根本的に変えることです。中国の大学を卒業したばかりの農家出身のチベット人教師と話をしているとき、私たちの体は十分に「きれい」ではないと気付いたのです。私たちのスピーチも十分「文明化」されておらず、「よりよい」暮らしを追求しなければならないと感じました。私たちを理想的な近代人へと変えるべく、ありとあらゆることが行われました。暴力は当然のように容認され、毎日のように苦痛を味わいました。

教師たちは、伝統、年配者、さらには両親までも憎むよう仕向けました。国家の代弁者であるかのように教師たちは、いい暮らしはチベット社会の中ではなく外にあるという考えを植え付けようとしていました。チベット人遊牧民の子供である私たちを罰するために教師は存在していました。私たちは自分たちの文化的背景を恥じていました。そして、チベットの社会、文化に敵意を抱くようになりました。¹⁰⁹」

学術研究は限られているものの、現在の寄宿制学校でチベット人学生が経験する心理的、社会的悪影響については、多くの研究者が指摘している。四川省のチベット人居住地域の寄宿制学校の学生についての研究では、学生に、無気力、不安、社会的相互作用障害などの様々な精神健康問題があると2人の研究者が指摘している。

他者と関わり、外の世界を理解する学生の能力が低下しており、その原因は、「準軍隊的な閉鎖的な管理」にあるという。その結果、「狭い視野と思考しか持てなくなっている。¹¹⁰」

109 Gyal, Huatse, "Our Indigenous Land is Not a Wasteland," American Ethnologist website, February 6, 2021, <https://americanethnologist.org/features/reflections/our-indigenous-land-is-not-a-wasteland> (2021年11月15日アクセス) 詳細な引用は付録2参照。

110 Xiaoping, Wang and Dengzhu, Zhaxi, "Zangqu jisuzhi xuexiao youxiao zhiru jiating jiaoyu

チベット研究者ガザン・カオの調査研究によると、青海省の寄宿制学校で学ぶチベット人の若者には「疎外感」が見られるという。カオは、2つの学校の中学1年生から高校3年生までの学生の中から897人をランダムにサンプルとして選んだ。

学生、教師、管理者へのインタビューおよびアンケートから明らかになったのは、3分の1の子供が強い疎外感を抱いていたことである。¹¹¹ 苦悩や喪失感に加え、若い時期に疎外感を経験すると、他者と意義ある交流をすることができなくなると言われている。

さらに、カオは、強い疎外感と行動問題、薬物乱用、自殺に相関があるという学術研究を引用している。

「疎外感の中心にあるのは、無力感、無規範状態、何事にも意味を感じない状態、社会的孤立／離別です。疎外感は、自信、自尊心、自主性に大きな影響を及ぼします¹¹²」

四川省のチベット人居住地出身のあるチベット人は、幼い子供を寄宿制学校に送った代償について次のように語っている。

「親にとって子供は忘れることができないものです。これがこの上ない苦痛の原因です。しかし、子供は様々な困難を味わいます。まわりからの虐待、虐めに耐えることができないかもしれません。若くして両親から引き離されるのも苦痛でしょう。子供を寄宿制学校に送るメリットとデメリットを考えると、明らかにデメリットの方が上回ります。子供が成長するにつれ、子ども自身にデメリットが蓄積されるのは明らかです¹¹³」

チベット全土の証言、研究から、家族の絆・支援の喪失により、疎外感、ホームシック、肉体的・精神的苦痛が強まることがわかる。例えば、

celüe fenxi.” [An Analysis of Effectively Implanting Family Education Strategies in Boarding Schools in Tibetan Areas], *Industry and Information Technology Education* (2014): 89

111 Cao, “Alienation of Tibetan Adolescents in Rural Boarding Schools,” p. 503

112 Cao, “Alienation of Tibetan Adolescents in Rural Boarding Schools,” p. 504

113 付録1の情報5参照

Wang Xiaoping と Zhaxi Dengzhu によると、四川省では、チベット人の子供の80%が、自宅が遠く、帰宅が困難であるため、(祝日であっても)授業が行われている期間は自宅に戻らないという。

子供たちは自宅と学校の間で両親と会ったり、学校近くの親族や友人の家で過ごしたりするだけだという¹¹⁴。ある学校では、子供たちは1日に3分間だけ守衛所の固定電話で自宅への電話を許可されているという¹¹⁵。

家族とのつながりが十分でないこの状況は青海省でも見られる。青海省のある学校では、子供たちは携帯電話を学校に預けなければならず、返却されるのは長期休暇の時だけだという¹¹⁶。青海省のある教師は次のように述べている。

「最近、学生には話し相手がいません。昔は、先生から怒られたときも、家に帰ることができました。両親がいなくても話を聞いてくれる年配の人がいました。学校であった嫌なことやストレスを家族との会話で発散することができ、新たな日を迎えることができました。しかし、今の寄宿制学校では、学生は家族と会話することができず、ストレスを抱え、やがては病気を発症するのです¹¹⁷」

ラサでは、研究者Guo Tingting がアンケートや詳細なインタビューを通じて、チベット自治区の5つの地域の学生からデータを集めた。研究から明らかになったのは、学年に関わらず、学生はホームシックを経験しており、家族や伝統的な生活様式を取り戻したいと願っていること

114 Wang, Zhaxi, "Zangqu jisuzhi xuexiao," p. 89

115 Fu Jingyi, "Sichuan Zangqu tansuo muqu jiaoyu: cong 'you shu du' dao 'du hao shu'" [Sichuan's Tibetan Areas Explore Pastoral Education: From "Having Access to Education" to "Enjoying Good Education"], June 9, 2015, <http://politics.people.com.cn/n/2015/0609/c70731-27126607.html> (2021年6月8日アクセス) オンラインアーカイブ:<https://web.archive.org/web/20210913144503/http://politics.people.com.cn/n/2015/0609/c70731-27126607.html>

116 Cao, Gazang, "Liudong, jisu yu guishu: zangzu qingshaonian yu jiating-shehui guanxi xianzhuang yanjiu" [Mobility, Boarding and Belonging: A Study on the Status Quo of Tibetan Youth and Family-Social Relations], *Qinghai Social Sciences* 4, (2019): 23

117 Cao, Gazang, "Liudong, jisu yu guishu," p. 23

だった。とりわけ、バター茶、ツァンパなどのチベット料理や草原でのヤクの放牧がない生活を特に嘆いていた。報告書には次のように記されている。

「学生にホームシックになっているか尋ねると、99%がホームシックで、自宅や両親が恋しいと回答した。高校生の学生たちは、自宅にいる方がいいと、とても理性的に話してくれた。小学5年生の生徒たちは、自宅でヤクを放牧したり、夏の雨の時期にヤクの体の下で雨宿りをしたりしたときの楽しい経験を話してくれた。自宅についての質問に答えているときの学生は、プライドを持って幸せそうであった。しかし、学校から遠く離れた自宅や家族が恋しいかと尋ねると、学生たちは困惑し、いらいらしているようだった。^{118]}

子供たちに会おうとラサの学校を訪ねてきた両親のことについてもGuoは記述している。家族は定期的子供たちにお菓子や日用品を届けるために学校に来ていたという。しかし、家族は敷地内には入れず、フェンス越しに中の様子を見るだけであった。学校の管理者や教師は、親が敷地内に入れば、子供の成績を下げると話していた。^{119]}

「フェンス越しに親と会話している小学2年生の男の子を見ました。会話をしながら後ろを振り返り、しかめ面をしながら、教師に見つからないかを心配していました。教師に見つかると成績を下げられるのです。学生たちは急いで親からの差し入れをもらおうと、走って戻っていました。男の子は今にも泣きそうな表情を浮かべていました。^{120]}

118 Guo, Tingting, "Xizang nongcun jisuzhi xiaoxuesheng de qinggan xuqiu yanjiu" [A Study on the Emotional Needs of Rural Boarding School Pupils in Tibet] (MA Thesis, Southwest University, April 21, 2018) p. 51

119 Guo, "Xizang nongcun jisuzhi xiaoxuesheng," p. 49

120 Guo, "Xizang nongcun jisuzhi xiaoxuesheng," p. 49

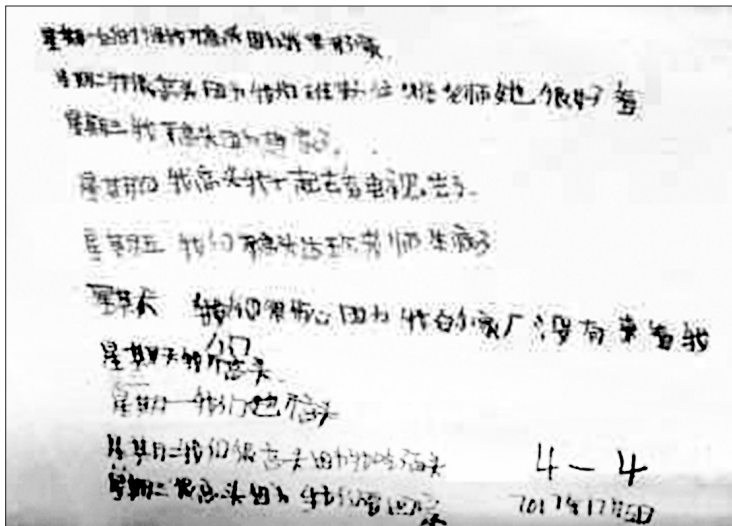
「小学校4年生の女の子が、両親が来ないと言っていました。両親に来てほしかったのかと尋ねると、来てほしくないとのことでした。成績が下げられるからです。「成績が下げられなかったら、両親に学校に来てほしい?」と尋ねると、彼女は掃除をしながら頷きました。¹²¹」



画像：Guo Tingting の2018年の論文
「チベット地方部の寄宿制学校における精神的ニーズに関する研究」より

121 Guo, "Xizang nongcun jisuzhi xiaoxuesheng," p. 50

ラサの寄宿制学校で学ぶ小学校4年生に楽しかったことと悲しかったことを中国語で書いてもらおうと、多くの生徒が自宅が恋しいと答えた。Guoは1人の生徒の回答を画像で残している。



- 月曜日は悲しかった。家を出ないといけなかったから。
- 火曜日は楽しかった。新しい中国人の先生が来た。先生はとてもかわいかった。
- 水曜日は悲しかった。家が恋しいから。
- 木曜日は楽しかった。他の人と一緒にテレビが見れたから。
- 金曜日は悲しかった。ダードン先生が病気だったから。
- 土曜日はとても悲しかった。家族が会いに来てくれなかったから。
- 日曜日は悲しかった。
- 月曜日も悲しかった。
- 火曜日は楽しかった。饅頭を食べたから。
- 水曜日は楽しかった。家に帰ることができたから¹²²

122 Fourth grader, cited in Guo, "Xizang nongcun jisuzhi xiaoxuesheng," p. 52

チベットの寄宿制学校に入る学生はますます低年齢化している。家族から引き離されて孤独を味わった子供たちの末路は破滅的だ。青海省のチベット人学校にはチャイルド・ケア担当がおり、生徒たちが自分ではできない髪のブラッシング、洗顔のやり方を教えていた。国営メディアによると、肉体的・精神的にフォローが必要な学生の多くがこのような学校職員に依存しているという。学校職員を「お母さん」と呼ぶ学生すらいるという¹²³。ある学校職員は次のように述べている。

「1年生はまだ幼いです。親元を離れクラスメイトと暮らすことになれば、不快な経験をたくさんするのは避けられません¹²⁴」

個人、社会レベルでの長期影響が深く懸念される。

123 Wang Mei, “Zangzu xuesheng Wanma Zhaxi: Xin xuexiao bi jiali hai yao hao” [Tibetan Student Pema Tashi: The New School is Even Better Than Home], January 2, 2014, http://www.humanrights.cn/cn/zt/tbbd/44/5/t20140102_1131293.htm (2021年7月15日アクセス) オンラインアーカイブ:https://web.archive.org/web/20211124155539/http://www.humanrights.cn/cn/zt/tbbd/44/5/t20140102_1131293.htm

124 Wang, “Zangzu xuesheng Wanma Zhaxi

国際法と国内法

中国がチベットで展開する植民地的寄宿制学校制度は、複数の国際人権条約違反である。この条約には、中国が批准しているものも含まれる。また、中国自身の国内法にも違反している。実際、寄宿制学校は、文化、宗教、言語のアイデンティティを保存したいと願う両親および子供の基本的人権の侵害と言える。

国際人権法で重視されている点が2つある。それは、家庭内にいる子供がいる際は子供の最大限の利益が守られなければならない点、国家の干渉なく子供は家族とともに暮らす権利がある点である。これらが記載されている人権法の中には、中国が批准、調印しているものもある。

これらの人権法が意味しているのは、両親からの極度の虐待やネグレクトの場合を除き、子供に関する基本的な決定をする権限は主に両親にあるということである。この決定には、子供にどのような教育を受けさせるか、どのような宗教を信仰させるか、どのように伝統文化に触れさせるかも含まれる。

世界人権宣言では、家族は国からの保護を受ける基本的単位であることが規定されている。これには、一般的な保護と、子供の教育について両親が選択できる権利を有しているという意味での保護がある。

第16条第3項には「家族は、社会の自然かつ基本的な集団単位であって、社会及び国の保護を受ける権利を有する」と謳われている。さらに、第26条第3項では、「両親は、子供に与える教育の種類を選択する優先的権利を有する」と謳われている。¹²⁵

125 United Nations, "Universal Declaration of Human Rights," December 10, 1948, <https://www.un.org/en/about-us/universal-declaration-of-human-rights> (2021年11月25日アクセス)

中国は、経済的、社会的および文化的権利に関する国際規約に1997年に調印、2001年に批准している。¹²⁶ 同13条第3項には、「規約の締結国は、子供が公立学校以外の学校を選択する際に、その学校が国家が定めた最低限の教育水準を満たす場合、両親、場合によっては後見人の自由を尊重する責任を負う。これは、両親あるいは後見人の信念に従って、子供の宗教・倫理教育を保証するためである。」と謳われている¹²⁷。

中国は、子供の権利条約に1990年に調印し、1992年に批准している。¹²⁸ 同条約では、家族は「社会の基礎的な集団であり、家族の全構成員、特に、子供の成長、福祉のための自然な環境」と謳われており、子供は「自身の人格の完全かつ調和のとれた発達のため、幸福、愛情及び理解のある雰囲気のある家庭環境の中で成長すべきである」とされている。¹²⁹

さらに、同条約には、「両親の意思に反して、子供が両親から引き離されることのないよう国家は保証しなければならない。ただし、権限を持つ当局が、関連法、手続きに従った上で、子供の利益のために両親から引き離すのが妥当であると司法が判断した場合はこの限りではない。」と述べられている。¹³⁰

同様の条文が、多くの国際人権規範（特に教育問題を扱っているものを含む）に記されている。¹³¹ 他の選択肢を排除して、チベット人の両親

126 UN Human Rights Treaty Bodies, “UN Treaty Body Database,” https://tbinternet.ohchr.org/_layouts/15/TreatyBodyExternal/Treaty.aspx?CountryID=36&Lang=EN (2021年11月25日アクセス)

127 UN Office of the High Commissioner for Human Rights, “International Covenant on Economic, Social, and Cultural Rights, Article 13(3),” December 16, 1966, <https://www.ohchr.org/en/professionalinterest/pages/cescr.aspx> (2021年11月25日アクセス)

128 UN Human Rights Treaty Bodies, “UN Treaty Body Database.”

129 UN Office of the High Commissioner for Human Rights, “Convention on the Rights of the Child, preamble,” September 2, 1990, <https://www.ohchr.org/en/professionalinterest/pages/crc.aspx> (2021年11月25日アクセス)

130 UN Office of the High Commissioner for Human Rights, “Convention on the Rights of the Child, article 9.”

131 UN Educational, Scientific and Cultural Organisation, “Convention Against Discrimination in Education, article 5(b),” December 14, 1960, http://portal.unesco.org/en/ev.php-URL_

に子供を寄宿制学校に送らせている中国政府は、家族が団結する権利を侵害し、子供の教育の方向性を決定する権利を奪っている。

中国政府は、寄宿制学校を拡大し、学校で使用する言語を中国語に一本化している。そして、チベットの子供たちを自身の文化から引き離している。これらは、言語、文化、自由について国際的に謳われている両親および子供の権利の侵害である。

子供の権利条約には、「少数民族は自身の言語を使う権利を否定されない」と謳われている。¹³² 中国が1998年に調印した（批准はしていない）市民的及び政治的権利に関する国際規約¹³³にも同様の文言が見られる。¹³⁴

最近では、2022年、国連の民族差別撲滅委員会が中国政府に対し、学校で使用する言語を中国語に置き換えていること、チベット語の権利を啓蒙する人々が迫害されていることに懸念を表明した。¹³⁵ この数十年間、国連委員会は同様の懸念を表明し続けている。¹³⁶

ID=12949&URL_DO=DO_TOPIC&URL_SECTION=201.html (2021年11月25日アクセス)

132 UN Office of the High Commissioner for Human Rights, “Convention on the Rights of the Child, article 30.”

133 United Nations Human Rights Treaty Bodies, “UN Treaty Body Database.”

134 UN Office of the High Commissioner for Human Rights, “International Covenant on Civil and Political Rights, article 27,” December 19, 1966, <https://www.ohchr.org/en/professionalinterest/pages/ccpr.aspx> (2021年11月25日アクセス)

135 UN Office of the High Commissioner on Human Rights, “Communication of the UN Committee on the Elimination of Racial Discrimination dated 24 November 2020 to the government China,” https://tbinternet.ohchr.org/Treaties/CERD/Shared%20Documents/CHN/INT_CERD_FUL_CHN_43684_E.pdf (2021年11月25日アクセス)

136 UN Committee on Economic, Social and Cultural Rights, “Concluding observations on the second periodic report of China, including Hong Kong, China, and Macao, China, paragraph 36,” June 13, 2014, <https://www.refworld.org/docid/53c77e524.html> (2021年11月25日アクセス)
UN Committee on the Rights of the Child, “Concluding observations on the combined third and fourth periodic reports of China (including Hong Kong and Macau Special Administrative Regions), adopted by the Committee at its sixty-fourth session (16 September – 4 October 2013),” October 4, 2013, <https://www.refworld.org/docid/5263de9d4.html> (2021年11月25日アクセス)
UN Committee on the Rights of the Child, “Concluding Observations of the Committee on the Rights of the Child: China” June 7, 1996, (訳注:原著にweb アドレスが記載されていない) (2021年12月6日アクセス)

市民的及び政治的権利に関する国際規約では、文化的生活を営む権利は、「文化的習慣への干渉と文化的商品・サービスへのアクセスの干渉を政府が控えること」を意味すると説明している。この権利は複数の人権宣言で認められている。

例えば、世界人権宣言、民族的または種族的、宗教的および言語的少数者に属する人々の権利に関する宣言、先住民族の権利に関する国連宣言などがある。また、中国が調印、批准している人種差別撤廃条約、女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約などにも記載がある。¹³⁷

市民的及び政治的権利に関する国際規約には、この権利が教育の権利と「本質的に関連している」と述べられている。「教育を通じて、個人や社会は、価値観、宗教、習慣、言語、その他の文化的側面を伝える」からだ。

子供の権利条約には、「違法に干渉されることなく法に則って、国家は、子供がアイデンティティを保存する権利を尊重する義務がある。これには、国籍、氏名、家族関係も含まれる」と記されている。¹³⁸ チベットの子供が、家族や社会の文化生活や習慣に触れることができないように干渉し、中国共産党版のチベット文化にしか触れることができないよう強いている中国政府は、国際的に認められているチベット人の本質的な権利の侵害者である。

中国政府が展開する寄宿制学校では、チベットの子供たちは宗教の慣習や伝統に触れることができない。これは、市民的及び政治的権利に関する国際規約第18条第4項で規定されている子供および両親の権利の侵

137 UN Committee on Economic, Social and Cultural Rights (CESCR), General comment no. 21, Right of everyone to take part in cultural life (art. 15, para. 1a of the Covenant on Economic, Social and Cultural Rights), December 21, 2009, E/C.12/GC/21, <https://www.refworld.org/docid/4ed35bae2.html>

138 UN Office of the High Commissioner for Human Rights, "Convention on the Rights of the Child, article 8." 139 Human Rights in China, "UN Treaty Bodies and China," <https://www.hrichina.org/en/un-treaty-bodies-and-china> (2021年11月25日アクセス)

害である。中国は、市民的及び政治的権利に関する国際規約を批准していないものの、調印している。¹³⁹

市民的及び政治的権利に関する国際規約には「締結国は、両親、場合によっては後見人の自由を尊重する責任を負う。これは、両親あるいは後見人の信念に従って、子供の宗教・倫理教育を保証するためである。」と述べられている。同規約にはさらに、「すべての人は自由に宗教を選択できる権利だけでなく、宗教、信念、慣習、習慣、教えを表明する権利がある」と述べられている。また、先述したように、経済的、社会的および文化的権利に関する国際規約などの複数の規約や宣言でこれらの権利は保護されている。

チベットにおける寄宿制学校は中国の国内法にも違反している。中国の憲法、法律には、チベット人が言語を守る権利が明確に述べられており、教育の場でその権利を行使することができると規定されている。

中国の憲法には、「すべて民族が、自身の話し言葉・書き言葉を使用し、発展させる自由を有し、自己の風俗習慣を保持し、又は改革する自由を有する」と記されている。¹⁴⁰

1984年の民族区域自治法37条には、次のように述べられている。

「主に少数民族の学生を受け入れている学校などの教育機関は、可能な際はいつでも、自身の言語の教科書を使い、指導に使う言語として自身の言語を使うべきである。¹⁴¹」

139 The National People's Congress of the People's Republic of China, "Constitution of the People's Republic of China, article 4," http://www.npc.gov.cn/zgrdw/englishnpc/Constitution/node_2825.htm (2021年11月25日アクセス)

140 The National People's Congress of the People's Republic of China, "Constitution of the People's Republic of China, article 4," http://www.npc.gov.cn/zgrdw/englishnpc/Constitution/node_2825.htm (2021年11月25日アクセス)

141 Congressional-Executive Commission on China, "Regional Ethnic Autonomy Law of the People's Republic of China," <https://www.cecc.gov/resources/legal-provisions/regional-ethnic-autonomy-law-of-the-peoples-republic-of-china-amended> (2021年11月25日アクセス)

さらに、「標準的な中国語の話し言葉と書き言葉に関する法」では、一般条項の中に、「すべての人は自分自身の話し言葉と書き言葉を使用、発展させる自由を持つ。少数民族の話し言葉、書き言葉は、憲法、民族区域自治法などの法律の関連条項に従って使用されなければならない。」(第8条)と謳われている。

この法の後半に、「すべての学校で中国語を使用し、指導に使用する言語は標準中国語を使用しなければならない」と記されているが、これは、「他の法で規定がない場合に限られる」(第10条)とされている。¹⁴²

また、「教育法」には「少数民族の学校においては、特定の少数民族の言語あるいは現地の少数民族が通常使用している言語を指導に使ってよい」(第12条)と記されており、一般的なルールの例外が記されている。¹⁴³

中国政府のいわゆる「バイリンガル政策」、とりわけ強制的な植民地的寄宿制学校は、中国自身の法体系違反である。

142 National People's Congress of the People's Republic of China, "Law of the People's Republic of China on the Standard Spoken and Written Chinese Language," October 31, 2000, http://www.npc.gov.cn/zgrdw/englishnpc/Law/2007-12/11/content_1383540.htm (2021年11月25日アクセス)

143 National People's Congress of the People's Republic of China, "Education Law of the People's Republic of China," March 18, 1995, http://www.npc.gov.cn/zgrdwenglishnpc/Law/2007-12/12/content_1383710.htm (2021年11月25日アクセス)

結論

チベット人学生の4分の3以上が現在家族から引き離され、中国政府が管理する寄宿制学校に収容されている。これが起きているのはチベット全土、すなわち中国政府が言うところのチベット自治区、チベット自治州、チベット自治県全体である。村の学校を閉鎖し、政府以外の学校のオプションを排除することで、子供たちは家を出なくてはならなくなる。直接的に両親を脅迫し、子供を寄宿制学校に送らせるケースもある。

中国政府は子供たちの全世代を家族や社会から切り離すのみならず、宗教、言語、文化からも遠ざけている。これは国家による意図的なチベット人のアイデンティティの抹殺であり、アイデンティティを中国政府に都合のいいものにすり替えようとする意図がある。中国共産党に政治的に忠誠を誓い、中国共産党の指導に従う画一的な中国人にチベット人を作り変えようとしているのだ。

寄宿制学校以外の手段については周知のとおりである。中国政府は、チベット仏教の伝統に基づかないやり方で次のダライ・ラマを選定しようとしている。さらに、チベット人遊牧民を先祖代々の草原から追放している。しかしながら、最も陰湿なプロジェクトの1つと言ってもいい寄宿制学校制度は、現在に至るまで国際的な注目を逃れている。

中国政府が展開する寄宿制学校は、国際人権法にも中国国内法にも違反している。子供たちが家族と暮らし、宗教や文化に触れ、自身の言語を話し学ぶ権利を中国政府は否定している。

子供たちは家族の愛を受けて育ち、自身の言語で教育を受けてこそ、立派に成長する。しかし、現在のチベット人の子供たちは、家族から引き離され、中国政府の政治カリキュラムに染まっている。多くの子供達は精神的な苦痛に耐えている。

かつてカナダの寄宿制学校に収容された子供たち千人以上が辛い体験を語っている。これにより、アメリカ、カナダ政府が運営する寄宿制学校の長期的悪影響が見積もられ、国際社会からの批判を浴びた。

寄宿制学校で行われた政府による強制的民族同化という負の遺産をチベットに引き継いではならない。これがすべての国の責務である。各国政府が手を取り、チベットにおける中国の寄宿制学校を終わらせることが重要である。

国連への提言

- 国連人権高等弁務官は情報を集めるため独立した調査・報告指令を出す必要があります。これには、寄宿制学校に子供を送るよう強制されているチベット人の親に関する報告も含まれます。そして、結果を公式に発表し、チベットの人権状況についての報告書を作成する必要があります。さらに、人権理事会に定期的に報告する必要があります。
- 国連人権高等弁務官はチベットを即座に訪問し、寄宿制学校のチベット人の子供たちの状況を調査する必要があります。その調査は、中立的で意義あるものにする必要があります。
- 国連人権理事会は、2020年6月26日の人権理事会の特別報告者による共同声明の提言「中国における基本的自由を保護するための国連専門家による決定的対策」に従って行動する必要があります。対象地域は、チベット自治区内外のチベット全土です。

国連加盟国・組織へ

国連加盟国・組織は次のような呼びかけを中国政府に対して行う必要があります。

- 国連人権高等弁務官および特別報告者が、即時に中立的な意義あるチベット訪問ができるようにし、寄宿制学校へも訪問できるようにすること。
- 子供の権利条約に従って、チベットの子供たちに関するあらゆる決定において子供の利益が最優先で考慮されるように保証すること。これには、①プライバシー、②家族環境、③教育、④身体的・精神的健康などあらゆる子供の権利に関する保護が含まれる。
- 寄宿制学校で学ぶチベット人の子供の正確な数を中国政府に提供させること。
- 学校で使用する言語をチベット語から中国語に変えるという欺瞞的な「バイリンガル教育」を改めさせ、チベット人の子供が学校生活のあらゆる場でチベット語を使えるようにすること。
- チベット人居住地、特に地方部で、能力の高いチベット人教師を雇用し、チベット人教師が漢人教師に取って代わられるのを防止すること。これは、チベット人社会でチベット人学生が家族から引き離されることなく、チベット語で高等教育を受けられるようにするためである。
- 学校のカリキュラムのすべてにおいて、プロパガンダ、政治的イデオロギー、政治的教化を停止させ、チベット人学生がチベットの歴史、文化、宗教を学べるようにすること。
- 国連人権条約機関への適切なタイミングでの報告義務を支持すること。これには、2019年3月31日以降行われていない子供の権利委員会への報告も含まれる。

関係する政府へ

二国間あるいは多国間調整において、各国政府に対し次のことを要望いたします。

- 中国政府がチベットで展開する寄宿制学校にあらゆるレベルで即時深刻な懸念を表明し、中国政府に対し寄宿制学校をやめさせるよう求めること。
- 中国政府、特に、全国人民代表大会常務委員会に対し、チベット語の啓蒙と保存のための憲法および関連法による保護を支持、実行させ、教育の場で少数民族の言語の使用を認める法を軽んじるような試みを非難する努力を惜しまないよう求めること。
- アメリカのマグニツキー法、EUのグローバル人権制裁制度、カナダ、イギリス、その他の国の人権制裁制度の下、寄宿制学校を管轄する省中国共産書記を含む政府の役人に制裁を科すこと。その他の懲罰的措置を調査すること。集団制裁より個人制裁が有効である。
- チベット語・文化の啓蒙と保存のために世界中のチベット人が行っているプログラムを支持すること。

付録1 現在の植民地的寄宿制学校に対するチベット人の意見

ここで紹介する証言やコメントは、2020～2021年に複数の研究者によって集められたものである。本報告書の執筆以前の証言やコメントもある。本報告書のために集められたものもある。証言者に危険が及ばないよう、証言者の特定につながる可能性がある内容は削除した。

〔情報1〕

アムド(青海省)のチベット人との秘密インタビュー(2021)

4、5歳の子供たちは母親とは離れ離れになりたくないはずです。しかし、4、5歳の子供たちが寄宿制学校へ強制的に送られているのです。子供たちが、母親の膝にしがみついて数日間泣きやまないこともあります。「よくわからない場所には行きたくない、そんな場所に行かされるのなら家には戻らない」という子供もいます。寄宿制学校に行くことを子供も親も望んでいないのです。急激な環境の変化は、子供たちに深刻な身体的・精神的悪影響をもたらすでしょう。学校で提供される食べ物に慣れるのにも時間がかかります。これにより、栄養失調や深刻な健康問題が発生します。緊急性がないと判断されれば、学校の病院は子供たちを診察しません。子供の健康を無視したこのような姿勢が、長期的な健康問題を引き起こします。季節的な病気、伝染病の多くは治療をしてももらえません。

子供を寄宿制学校に送るよう両親は強制されます。本当は、親は子供を寄宿制学校に送りたいくないのです。しかし、寄宿制学校に送るのが義務になっているため、他に選択肢はありません。寄宿制学校に行かなければならない年齢は地域によって違うかもしれません。しかし、子供が所定の年齢に達したら、親は子供を寄宿制学校に送らなければなりません。送らなければ罰金などの罰則が科されます。寄宿制の幼稚園に子供

を送らない場合、小学校入学を認めないと役人が家族に言ったこともありました。

通常、新年度のはじめに、地方当局および関連部署の役人が会議を開催します。この会議の場で、個々の家族構成、子供の数、年齢を確認します。そして、4歳以上の子供は寄宿制学校に送るのが義務だと説明します。家族がこれを拒否すれば、罰金が科されます。第1子を寄宿制学校に送らなければ、第2、3子の入学を認めないと脅迫するケースもあります。このような様々な方法を使って、役人は家族を脅迫し、従わせます。親は恐怖のあまり、子供を寄宿制学校に送ることになるのです。

〔情報2〕

アムド（青海省）のチベット人の音声記録の要約（2020）

村に役人が繰り返しやって来て、小学校1～3年生は寄宿制学校に送らなければならないという趣旨の講義を行っています。町の役人が2人、県の教育の役人が1人、警察官が6人います。彼らは次のように言っています。

「他の町では、子供たちを寄宿制学校に送るよう脅迫が行われている。しかし、ここでは脅迫をする必要はないだろう。私たちがここに来るのは今日で最後だ。もし明日来なければならなくなったら、それは問題だ。」

「この政策について事実を捻じ曲げて伝えている人がいるが、それはよくない。前に進むためには、責任が伴う。お前たちは、WeChat で話し合いをしていた。盗聴していたのでわかっている。私たちの言うことを聞かないのであれば、1人1人に圧力をかけるしかない。それは容易なことだ。」

「この政策に従わず、子供を寄宿制学校に送るのを拒めば、抗議活動と見なす。このような状況が続けば、沈黙の抗議と見なす。」

「一般的に、県の教育については、省レベルのプロジェクトが多く行われている。私たちの言うことに従わないのであれば、これらの将来の計画すべてを台無しにすることになる。その責任はお前たちにある。」

〔情報3〕

カム(四川省)カルゼ出身でインドに亡命しているチベット僧の秘密の証言

家族は子供たちを寄宿制学校に送るよう脅迫されます。また、子供を私立学校へ送るのをやめるよう言われます。私立学校の方が設備がよく、チベットの環境があります。脅迫を受けた家族は、国営の寄宿制学校に子供を送ることを余儀なくされます。村では、幼稚園の数が増えています。そこには、2～4歳の幼い子供が通っています。この幼稚園は、日中だけの幼稚園ですが、ほとんどの家族が子供をこの幼稚園に送っています。寄宿制学校に入学しなければならないのは、小学校1年生、つまり、6、7歳のタイミングです。子供たちは家に帰ってもいいことになっていますが、第2の基準があり、休暇中以外は家には帰れません。

最近では、子供を寄宿制学校に送っていない親はほとんどいません。家族の間で競争意識が増しています。2か月の夏休みや冬休みの間、余裕のある家族は子供を家庭教師や塾で勉強させます。家族は子供を公立の学校に行かせるように言われています。僧院や高僧が運営している私立学校には行かせないように言われています(このようなチベット学校ではチベット語学ぶ機会がある)。中国政府が運営する学校に行けば、中国と英語は上達しますが、チベット語は下手になります。僧院が運営する学校に行けば、中国語、英語、チベット語のすべてが上達します。

〔情報4〕

アムド（青海省）在住のチベット人への秘密インタビュー（2021）

数年前から、（安全のため削除）と（安全のため削除）で、寄宿制学校が始まりました。中学生向けの寄宿制学校は昔からありました。（安全のため削除）では、2020年から、子供を寄宿制学校に行かせるよう厳しい命令が出るようになりました。現時点で、小学校1年生（6歳）以上の子供達が寄宿制学校に入れられています。（安全のため削除）の寄宿制学校には、850人の学生がいると聞いています。

もともとすべての村に完全な小学校がありました。2020年、（安全のため削除）では、これらの学校が看護学校に変えられ、子供が自分の村で学ぶのが禁止になりました。そして、家族は子供を寄宿制学校に送るのを余儀なくされています。スクールバスのような設備がないため、子供の送り迎えをするのは困難です。しかし、親たちは送り迎えをしています。（安全のため削除）のチベット人も同様の困難に直面しています。

〔情報5〕

四川省のチベット人の秘密の証言（2021）

私は（安全のため削除）の生まれです。私の一人息子は7歳の時に中国政府が運営する寄宿制学校に送られました。当時のことを思い返すと、今も胸が痛みます。2006年9月1日のことでした。息子を寄宿制学校に送り届け帰宅しようとしたとき、息子がこちらに駆け寄ってきたのです。とても悲しそうな表情を浮かべていました。頬には涙が伝っていました。息子は、学校にはいたくないと言いはじめました。寄宿制学校に息子を残してくることは、私にとって、精神的な拷問でした。どれほど惨めな思いをしたか、言い表す言葉も見つかりません。

1週間が1か月になり、1か月が1年になっていきました。小学校3

年生になった息子は、自分のことは自分でできるようになっていました。当時、いい教育を受けなければ、息子がいい人生を送るのは難しい、そう妻と私は考えていました。そして、私たちは強い気持ちで決断を下しました。同時に、同様の困難を抱えている他の親とも話をしました。政府の役人とも話をしましたが、すべてが無駄でした。

このような辛い経験をしているのは私の家族だけではありません。多くの家族が同様の経験をしています。親にとって子供は忘れることができないものです。これがこの上ない苦痛の原因です。しかし、子供は様々な困難を味わいます。まわりからの虐待、虐めに耐えることができないかもしれません。若くして両親から引き離されるのも苦痛でしょう。子供を寄宿制学校に送るメリットとデメリットを考えると、明らかにデメリットの方が上回ります。子供が成長するにつれ、子ども自身にデメリットが蓄積されるのは明らかです。

〔情報6〕

カム（四川省）カルゼ出身でインドに亡命しているチベット人の秘密の証言（2021）

最近、チベットから連絡があり、深刻な問題が起きていると聞きました。寄宿制学校の目的が、「チベット人のアイデンティティを根絶やしにし、中国人として生まれ変わらせること」だと言うのです。文化、精神を消し去るプロセスの中で、子供たちは消耗品として扱われ、身体的・精神的虐待を受けます。教師や学校の管理者による性的虐待や暴力のような身体的拷問が密に行われており、多くの子供たちが精神的トラウマを抱えることとなります。また、強制的に中国の価値観を植え込まれ、チベットの宗教、伝統を絶たれることによる精神的虐待もあります。このような虐待環境から逃れる手段として、薬物乱用や自殺がカルゼの子供達の間を広まっていることが近年報告されています。

2000年代初頭のカルゼでは、寄宿制学校あるいは全日制の学校に少なくとも2年間通うことが求められていました。しかし、2012年以降、学校の期間が延長され、寄宿制学校で学ぶことが義務になりました。例えば、カルゼでは、高校卒業まで寄宿制学校で学ぶことが義務付けられました。このような政策により、少なくとも7年以上寄宿制学校に留まることが強制されています。

寄宿制学校は選択肢の一つではなくなりました。脅迫行動というよりは、体系的な強制と言えます。子供を寄宿制学校に送るのを拒否した家族は、ヘルスケア、学校に登録する権利、身分証明書を受け取る権利を奪われます。身分証明書のはく奪は市民権のはく奪を意味します。身分証明書がなければ、銀行で取引ができず、重要な免許が取得できず、住居の移転もできなくなります。このような強制は、直接的な強迫や懲罰よりも強力なツールとなっています。

チベットにおける寄宿制学校は、体系的な差別に基づいています。寄宿制学校の本質、根本目的は、教育の機会拡大ではなく、植民地化によりチベット人の力を奪うことです。子供たちは中国の価値観を植え付けられ、チベットの言語や文化を蔑むよう教えられます。方言を話したり、信仰を抱いていたりしている子供たちは、軽蔑され、自分を恥ずかしく思うようになります。

オンラインコメント1 (2021)

私の地域では、4歳以上の子供を寄宿制学校に送るのが義務になっています。先生は中国語しか話しません。すべての授業が中国語で行われています。童謡、子守唄も中国語です。

子供たちが7歳になって小学校に通い始める時点で、ほとんどの子供

がチベット語を話せなくなっています。主要な授業の教師は漢人のみで、主要言語として中国語が使われます。親の中にも中国語を重視する人もいます。例えば、このような親は、中国語の宿題を先にやるように子供に言います。そうすることで、子供が先生から好かれるようになるのです。このようにして、子供たちはチベット語学習への興味を失っていきます。これが、今日、私たちの言語が置かれている状況です。

オンラインコメント2 (2021)

以前と比べて、寄宿制学校に入学する生徒が低年齢化しています。理由の1つは政府の学校に入るのが義務になったことです。別の見方をすれば、他の子供達と競えるようになるという意味で、今日の競争社会を生き抜くための手段とも言えます。子供を幼い時に学校に送らなければ、子供たちが学業について行けない可能性もあります。どちらも私たちにはいいことではありません。

付録2 証言の二次情報

〔証言1〕

チベット自治区ラサの元非常勤講師へのヒューマン・ライツ・ウォッチによるインタビュー¹⁴⁴

Part 1 (2015)

「教育村」というものが設置されています。これらは寄宿制学校です。小学校もありますが、大半が中学校です。現在、県の小学校は6校あります。学校は、子供たちに中国語に対する自信を付けさせることでしよう。いくつかの学校、とりわけ町の学校の環境は劣悪です。自宅からも遠く、自宅に帰るのは容易ではありません。ラサから0.5 マイルほどの場所にあるツェルグンタン近郊にある新しい「教育村」がその一例です。この村ができた後、都市の学校はすべてこの村に移されました。子供たちが自宅に帰るのは2週間おきです。彼らは、ラサ在住にもかかわらず、ラサで寄宿学生になっています。

Part 2 (2017)

ラサ郊外の（安全のため削除）県の私たちの村から、学生たちはラサ近郊の寄宿制の中学校、高校に通います。車で1時間ほどの距離です。（安全のため削除）には小学校があります。車で20分ほどの距離です。学校に歩いて通う人はいません。最近では車もあまり見かけません。町には幼稚園がありますが、複数の村の子供のための幼稚園です。幼稚園では中国語が教えられます。幼稚園の卒園生は流暢な中国語を話します。この状況は祖父母にとっては心配でしかありません。しかし、幼稚園児の両親は、その多くは私の教え子ですが、幼稚園児の祖父母の世代を脱

144 Human Rights Watch, "China's 'Bilingual Education' Policy in Tibet," pp. 94-95

落者で行き場がないと見ています。幼稚園児の祖父母は私の両親より少し年配の世代ですが、読み書きができず、見下されていました。町の子供たちが受けていたような水準の高い教育を受けていなかったのです。今、若い人たちは農場で働きたいとはもう思っていないのです。

学校で数年学んだ学生たちは、最終的に政府の仕事に就けると想像しています。彼らは農場では働きたくないのです。親を見返したいのです。学生たちは街に近いところで暮らし、アイデンティティを失っています。しかし、中学の試験で9割の生徒が失敗し、それで将来の希望が絶たれるのです。学生たちは建設現場などで働くしかありません。長期間接することのなかった村にいる家族との連絡もできないかもしれません。

年配者はいつもチベット語教育が不足していることに苦言を呈しています。幼稚園児は自宅で正しいチベット語が話せないのです。幼稚園児とチベット語で会話ができれば、幼稚園児は快適に感じるはずですが。しかし、幼稚園児は中国教育に没頭してしまっているのです。

〔証言2〕

フアツェ・ギャルの「私たちの先祖代々の土地は廃棄場ではない」からの抜粋¹⁴⁵

1997年、私が暮らす草原の村に地方当局が寄宿制学校を建設しました。くじ引きにより、私は学校がリクルートした第1期生7人のうちの1人となりました。ほとんどの家族が子供を学校に送ることに反対していました。子供を学校に送るのに反対した家族には重い罰金が科されました。朝食、昼食、夕食に学校が提供していたのはお湯と蒸したパンだけでした。遊牧民はヤクを飼っていたので、ヤクのヨーグルト、バター、ミルクを食べることはできました（訳注：厳密にはヤクはオスを指すので、メスの

145 Gyal, Huatse, 2021. "Our Indigenous Land is Not a Wasteland."

ディの方が正しい)。冬には、疎らなコンクリートの建物の室温はマイナス7℃まで下がりました。学生はみな手足にあかぎれをしていました。頬も赤くなっていました。教師は、中国語とチベット語で指導していました。

教育以外に、学校にはより大きなミッションがありました。私たちの価値観、精神を根本的に変えることです。中国の大学を卒業したばかりの農家出身のチベット人教師と話をしているとき、私たちの体は十分に「きれい」ではないと気付いたのです。私たちのスピーチも十分「文明化」されておらず、「よりよい」暮らしを追求しなければならないと感じました。私たちを理想的な近代人へと変えるべく、ありとあらゆることが行われました。暴力は当然のように容認され、毎日のように苦痛を味わいました。寒さで凍てつく手が竹の棒で殴られたときが本当に最悪でした。チベット人は「痛みはやがてなくなるが、その記憶は決してなくなる。」と言っています。

「両親のような時代遅れの暮らしをしたくないなら、一生懸命勉強しなさい。」

「一生懸命勉強しなければ、愚かな遊牧民にしかねない。」

教師たちは、伝統、年配者、さらには両親までも憎むよう仕向けました。国家の代弁者であるかのように教師たちは、いい暮らしはチベット社会の中ではなく外にあるという考えを植え付けようとしていました。チベット人遊牧民の子供である私たちを罰するために教師は存在していました。私たちは自分たちの文化的背景を恥じていました。そして、チベットの社会、文化に敵意を抱くようになりました。

〔証言3〕

ムリチベット族自治県の寄宿制学校の教師¹⁴⁶

まず、ここの教育の質は、漢人地域の教育の質に比べてはっきりと劣っています。これには多くの理由があります。多くの人が言っているように、教師や教材の質が悪いです。もう1つの問題が、多くの学生の家族が宗教を信仰していることです。チベット人とモンゴル人の学生、その家族のほとんどはチベット仏教を信仰しています。授業が行われている期間に休暇をとって自宅に戻り宗教活動に参加する学生もいます。これは問題です。この件で保護者と何度も話し合いをしましたが、無駄でした。子供たちは私たちの言うことを聞きませんし、文句を言います。大きな問題です。いずれにせよ、生徒たちが宗教活動に参加することには同意できません。私見ですが、学業のみならず、生徒の長期的な身体的・精神的成長にも悪影響をおよぼす封建的な考え方や迷信があると思います。そのため、私たちは村の役人と何度も話し合いを行い、生徒の親が私たちに協力するよう求めました。宗教活動に参加するために自宅に帰ることが理由で学校を欠席することを、私たちは一般的に認めていません。私たちの説得の後、私たちの言うことを聞いてくれるようになった親もいますが、不満を抱いている親もいます。子供を連れ戻そうと学校に来た親もいます。病気を理由に学校を欠席して宗教活動に参加するため自宅に帰る生徒もいます。総じて、私たちの対策 はあまり効果が出ていません。

所見1 He Nengkun の2012年の博士論文からの抜粋。

チベット自治区の寄宿制学校の校長、両親、学生の証言を含む

大きな宗教行事があるとき、学生たちはいつも何とかしてこれに参加しようとします。大きな行事の時は欠席者が多数出ます。校長によると、

146 Cited in Xu Jianhua, "Duo Minzu jisuzhi xuexiao zhong de minzu wenhua guanzhao wenti yanjiu," p. 29

学生が学校を休んで宗教行事に参加するのを防ぎたいということでした。さらに、学生が宗教活動に参加するのを防ぐため、学生たちが帰宅時に必ず通らなければならない交差点にスタッフを配置し、子供が帰宅するのを防ぎ、車で学校に連れ戻すそうです。¹⁴⁷

(中略)

子供たちと両親が一緒に過ごす時間はほとんどありません。子供が両親と会話する機会は激減し、親子関係に大きな悪影響が出ています。多くの子供の性格、価値観、労働スキルは現代教育に依存するはずはありません。親の模範あるいは環境にのみ依存するのです。それは、宗教儀式、家族との経験、大規模イベントかもしれません。学生が家で過ごす時間は短く、大半は学校で過ごします。久しぶりに自宅に帰った学生は家族との会話を難しいと感じることも多いです。その結果、親は子供を育てるのが難しくなるとネガティブな感情を抱くようになります。それが子供を学校に行かせるかどうかの決断に影響します。学校に行かせる前は子供たちは本当のチベット人の子供のようで育てやすかったと言う親もいます。学校に行くと、子供たちは親の言うことを聞かなくなります。そして、日常生活の重要な側面を理解できなくなり、チベット人らしさがどんどん薄れていきます。¹⁴⁸

(中略)

様々な理由で毎月の休暇の際も自宅に帰れない子供がいます。彼らは孤独に耐えられず、寮生活に恐怖も覚えます。彼らはキルトや毛布を直接床に敷いて寝ます。放課後、子供を迎えに来る親もいます。親が迎えに来ない子供たちは他の子供たちが親と一緒にいるのを見て孤独な表情を浮かべます。インタビューの際、多くの子供たちが「自宅に帰りたい、ただそれだけ。学校にいるのは怖い。」と言いました。子供たちは自宅で家族の愛情を受けるべきです。両親の愛情を受けるべきです。兄弟姉

147 He Nengkun, "Xizang Nongmuqu jiaoyu tiaoshi yanjiu," p. 94

148 He Nengkun, "Xizang Nongmuqu jiaoyu tiaoshi yanjiu," p. 135

妹の愛情を受けるべきです。気ままな子供生活を楽しむべきです。しかし、現在の教育システムでは、こうしたことが多かれ少なかれ犠牲になっています。¹⁴⁹

(中略)

タシという子供の僧侶がいます。彼は中学校でしばらく学んでいました。彼は僧院にいる方がいいと言っていました。学校と違い、僧院には、言語の壁、生活の壁、理解の壁、精神的な壁がないのです。様々な民族の先生と会話ができ、難しい宿題もなく、批判されることも少ないと言います。そして、好きな時に家に帰れます。つまり、僧院での生活は楽しく幸せなのです。僧院での教育については詳細に調査できませんが、僧院にいたいと言う子供たちがいることから、子供たちにとって僧院は魅力的な場所なのでしょう。¹⁵⁰

所見2 教科書を完全中国語化することに関する

ンガリ県教育局副局長のコメント¹⁵¹

〈ンガリのチベット人の小学校で使う「言語」の教科書について〉

教科書の中にはチベットの文化についての記述が少ないものがあります。チベットの特徴が十分反映されていません。例えば、端午節や姓氏歌は中国の伝統で、チベット人の小学生が理解するのは難しいです。文章の背景、単語の意味を説明するのにかなりの時間がかかります。

教育部によって編纂された教科書は、学生の読み書き能力の向上に焦点をあてています。伝統的にはピンインを学び、その後、文字を学びますが、この教科書では先に文字を学び、その後、ピンインを学ぶことに

149 He Nengkun, "Xizang Nongmuqu jiaoyu tiaoshi yanjiu," p. 134

150 He Nengkun, "Xizang Nongmuqu jiaoyu tiaoshi yanjiu," p. 171

151 Yang Liu, "Ali diqu yiwu jiaoyu tongbian 'san ke' jiaocai shiyong qingkuang diaocha yu fenxi" [Investigation and Analysis of the Use of the Centralized Compiled "Three Subjects" Teaching Materials for Compulsory Education in Ngari Prefecture], Xizang Jiaoyu 9 (2020) pp. 6-7

なっています。中国語にほとんど触れたことのないチベット人の学生、特に、草原地域出身の学生にとっては、このような学習はこの上なく骨が折れるものです。

〈ンガリのチベット人の小中学校で使う「歴史」の教科書について〉

珍しい漢字にもピンインや説明が付いていません。中国語があまり得意でないンガリの学生にとって、教科書に掲載されている中国の昔話や古い資料は理解するのがとても難しいです。歴史を学ぶプロセスにおいても、ンガリの学生が言語能力のギャップに苦しんでいる様子がわかります。

〈義務教科書の例:チベット自治区の小学校および中学1、2年生用¹⁵²⁾〉



「道德と法治」
小学校1年生用
2016年版
人民教育出版社



「漢文」
中学校1年生用
2016年版
人民教育出版社



「中国史」
小学校1年生用
2016年版
人民教育出版社



152 Fang Fengwen et al, "Xizang jiaoyu jingzhun fupin tuopin de jingyan yu kunnan fenxi" [An Analysis of the Experiences and Difficulties in Tibetan Education Precision Poverty Alleviation], thepaper.cn, September 16, 2019, https://www.thepaper.cn/newsDetail_forward_4434666 (2021年6月26日アクセス) オンラインアーカイブ:https://web.archive.org/web/20211126151623/https://www.thepaper.cn/newsDetail_forward_4434666

付録3 寄宿制学校の元生徒の証言

私たちの研究者は、チベットの初期の寄宿制学校で学んだことのあるチベット難民にインタビューを行った。彼らが寄宿制学校で学んだのは、1986～2009年である。少数のサンプルではあるが、寄宿制学校の様子を垣間見ることができる。彼らが通った初期の寄宿制学校が、この10年間に広まった植民地的寄宿制学校の前身である。

〔証言1〕（2021）

アムドのツォロ州バゾン県の寄宿制学校での経験

1990年代、私の中学校は、生活環境は極めて悪く、最低限の食べ物しか与えられませんでした。1日3回の食事はわずかな量で、満腹になるには程遠かったです。あまりに食事が少なかったので、多くの子供たちが学校の倉庫や周辺地域から食糧を盗んでいました。盗みがばれると、関係した学生は停学処分を受けたり激しく殴られたりしていました。飲料水を含む水もほとんどありませんでした。学校の外の遠くの場所まで飲料水を取りに行くのが女子生徒の日課でした。体を洗えたのは月に1、2回でした。

健康や衛生に関わる教育や設備はありませんでした。学校はそのようなことをまったく気にしていませんでした。季節性インフルエンザや結膜炎のような伝染病が瞬く間に学生の間を広まっていますが、ほとんどの場合、治療は受けられませんでした。私の結膜炎は、とても悪化しました。視界がぼやける状態が長く続きました。ほとんどの学生の服や髪にはノミがいました。

寮、いや、学校全体に女性にとって安全な場所はありませんでした。レイプ、セクハラ、暴力、虐め、窃盗が横行していました。夜には様々

な男の人が女子寮に侵入していました。男の人が侵入してくるのは日常茶飯事で、学校関係者でない男の人もありました。漢人男性教師が女子の部屋に侵入し、レイプ、セクハラをすることも多々ありました。昼も夜も安全を感じたことはありません。絶えず恐怖を感じていました。当時、寮にいた女子のほとんどは、11～13歳でした。私たちが素直に従わないと、平手打ちをされ、蹴られました。私はよく漢人男性教師に職員室に呼び出され、不適切に体を触られ、セクハラされました。どのようにしてその状況を耐えたのか、今になってもわかりません。当時、母はすでに他界していました。私は当時の自分の状況を誰にも言うことができませんでした。

体罰も想像を絶していました。地方出身の学生やまったく中国語に触れたことのない学生に比べると私の中国語の成績は良かったので、私はそれほど体罰を受けませんでした。教師は怒ると、椅子、鉄の棒などありとあらゆるものを使って、生徒が出血するまで殴り続けました。暴力はとても激しく、日常的で、みな絶えず恐怖を感じていました。

寄宿制学校での3年間は悪夢以外の何物でもありません。肉体的、精神的な苦痛を味わい、疲れ果てました。学ぶ喜び、教育の意味というものを感じたことはありません。私はただただ生きていました。大きなトラウマでした。どうやって虐め、暴行、セクハラ、空腹から逃れるか、それだけを考えていました。

その後、息子が2年間寄宿制学校で学びました。設備や生活環境はそれほど改善したようには見えませんでした。今息子は野菜を食べたくないと言います。寄宿制学校の悪夢が蘇るからだそうです。学校で息子の喫煙が見つかった際、教師は煙草1箱を息子の口に突っ込みました。この漢人教師は、水を注いだコップに煙草1箱を入れ、別の生徒に飲ませ

ました。

授業スケジュールも非人道的です。午前7時から午後9時まで授業があります。休憩時間、遊びの時間はありません。食事は1日3回で、自習時間が30分あるいは1時間あります。学校が厳しく前時代的なので、学生は勉強する気に慣れません。もし今日私が息子に勉強するように言ったら、息子は戸惑うでしょう。寄宿制学校のことを思い出すからです。学校では、休憩する時間も自分のことを考える時間もなかったのです。息子は、2013、2014年に青海省ツォロ州ティガ県の寄宿制学校で学んでいました。

〔証言2〕

アムドのツォロ州チャプチャ県の寄宿制学校での経験

Part 1 (2020年の記事からの抜粋)

アムドのチャプチャの中学校で学んでいた時、3人の友達がいきました。友達は14歳でクラスメイトでした。ある夜、私たちが学校の寮で寝ていると、一酸化炭素で息苦しくなりました。友達3人は死にました。寄宿制学校でのこの恐怖とパニックの経験は今なお忘れられません。

Part 2 (2021年のインタビュー)

私は、1986～1989年にセルチェン・ゾンの民族学校に通いました。寄宿制学校の思い出はいいものではありません。悲しく、学校には戻りたくありませんでした。今になってわかったことは、学校の目的は、チベット人の生活様式を薄め、家族と引き離し、最終的には、言語、文化、伝統を破壊することだということです。

学校の生活環境はとても悪く、設備も不足していました。衛生設備も十分ではなく、食べ物も十分与えられませんでした。安全性も十分では

ありませんでした。お湯を沸かす設備もありませんでした。私たちは暖をとるために自分でストーブを持って来なければなりません。水も学校の外まで取りに行かなければなりません。学校で提供される食糧は十分ではなかったので、自分のお金で食糧を買わなければなりません。学校の台所は200人分の料理しかつくれず、不十分でした。また、自分のマットレス、キルト、シーツを持ってこなければなりません。

自由はありませんでした。午前6時から午後10時までスケジュールがいっぱいでした。自由時間はありませんでした。学校の敷地の外に出ることも許されませんでした。

いつでも暴力がありました。

寄宿制学校に入る前は、音楽や歌唱に興味がありました。積極的に発言する性格でした。しかし、寄宿制学校に入ってから多くの規制や制限があり、私は臆病で内向的になりました。

〔証言3〕

カムのチャムド市マルカム県の寄宿制学校での経験

Part 1 (2021年の記述)

私はマルカムの小さな村に生まれました。子供たちは村から300 km離れたガトにある寄宿制学校に送られました。私は、2000～2005年に小学校の寄宿制学校で学びました。週末、自宅に戻ることは認められませんでした。

2000年、学校に入った時、寮はありませんでした。しかし、幸か不幸か、入学して7か月と少し経った頃、新たに寮が建てられました。寮に

は、食堂や個別の台所はありませんでした。しかし、学校側が村の男性を何人か呼んで料理をさせていました。彼らは学校の運動場の隅で料理をしていました。校長は、彼らに村人から寄付を募り必要なものを買うように言っていました。

私が今でも後悔しているのは、寄宿制学校で多くの時間を無駄にしまったことです。通常の授業に参加することはできませんでした。木を植えたり、大根を収穫したり、学校の水槽や排水溝を掃除したりさせられました。いい先生はいませんでした。私たちのクラスの授業を先生は意図的にやりませんでした。親が学校に来られないので、学校で何が行われているか、何の教科を私たちが学んでいるかを親が知らなかったからです。今でもはっきり覚えていることは、週末に市場に買い物に行くのを許されなかったことです。料理人と一緒に働かされました。昼食が終わると、食堂でドキュメンタリー映画を見なければなりませんでした。それは、日中戦争の際の日本軍の破壊と暴力がいかに凄まじかったかについてのものでした。映画を見ない人が1人でもいれば、集団の罰として、夕食は与えられませんでした。様々なドキュメンタリー映画を見せるこの手法は、戦略的に中国への愛国心と日本への敵意を植え付けるやり方です。

インドに着いた後、学生たちは中国政府によりすっかり洗脳されていたことに気付きました。寄宿制学校の授業は7科目以上ありました。主要教科は、中国語、社会科学、中国史、数学でした。チベット語の授業は小学校しかありませんでした。中学校、高校でチベット語の授業はありませんでした。歴史の授業で習ったのは、日本軍を打ち破った中国軍の偉業、万里の長城、中国の軍事、経済の素晴らしさについてでした。寄宿制学校で海外の国、海外の学者について学ぶことはありませんでした。自分の国チベットについては何も習いませんでした。私は、中国が

祖国であり、日本人が私の人生最大の敵だと考えていました。このようにして、漢人教師は私たちの精神を完全に変えてしまったのです。

それだけではありません。中国当局がチベット人政治犯を処刑する際、私たちは墓地での葬式に連れて行かれました。当局は、チベット人政治犯を裏切者、反逆者集団、国家機密を世界に漏らした者と呼んでいました。授業中、いい中国人にならなければ、私たちも同じような運命を辿ると教師は言っていました。

(中略)

両親を含め、私の家族は学校に行ったことがありません。そのため、私が学校で何を学んでいるかをまったく知りませんでした。父はよく試験や成績について質問してきました。試験では、教科の先生は私たちが落第しないようにしました。生徒がいい成績をとることで先生の株が上がるからです。しかし、次第に、私は試験を受けるのは相応しくないとと思うようになりました。試験問題が難しすぎたからです。正解を知っているときも自分の言葉で答を書くことができませんでした。

文化委員会やスポーツ委員会が行う学校行事がたくさんありました。様々な場所出身の学生の間でこの種のイベントが行われるときは、プレッシャーを感じました。家族がイベントに来られなかったからです。イベント準備のための新しい服ももらえませんでした。私は学校の友達から借りた新しい服を着ていました。教師や委員が望む服を私が着ない限りは、私がステージでパフォーマンスをすることは認められませんでした。

教室で、私たちが臭いと言って話しかけてこない女性教師がいました。私には着替える制服も私服もなかったのです。私たちが持っていたのは学校から支給された制服だけで、制服をもう1着買うだけの金銭的余裕

はありませんでした。

Part 2 (2021年のインタビュー)

私が寄宿制学校に行ったのは7歳の時でした。小学校1年生から6年生まで学びました。すべての授業は中国語で行われました。チベット語は言語の授業の中で教えられました。私のクラスには4歳の子供がいました。

私の両親は高齢で、学校に来ることはできませんでした。兄が街で仕事があるときに訪ねてきてくれました。

電話の所持は認められていませんでした。電話を所持している教師は数人いましたが、学生がそれらを使うことは許されませんでした。家族はときおり第三者を介してメッセージを送っていました。

両親が官僚や役人の学生は、漢人もチベット人も特別待遇を受けていました。彼らは設備や教師が優れた特別クラスで学んでいました。彼らは学校や寮の雑用も免除されていました。しかし、私たちのような学生は、野菜の栽培、掃除、ガーデニング、皿洗い、荷物運びなどの数え切れないほどの仕事を割り当てられました。

自宅から離れて暮らすのは困難でした。家族はとても貧しかったです。ルームメイトとの間に、大きな経済格差がありました。とても困難な状況でした。上級生からは虐めを受け、私は恐怖を覚えました。両親は高齢で学校に来ることができないとわかっていました。兄弟姉妹も忙しかったです。家族、とりわけ、両親は困難な状況でした。このような状況で、私は心に大きな傷を負いました。

寄宿制学校は私に悪影響をおよぼしたと思います。家族は私を見て中国人のようになったと言っていました。

〔証言4〕（2021年のインタビュー）

ウツァンのラサの寄宿制学校の経験

私は、2003～2009年にラサにある中学校、高校に通いました。中学校には、1,500～2,000人の学生がいました。高校には寄宿生と通学生がおり、約60%が寄宿生でした。5%が漢人、95%がチベット人でした。

衛生環境は悪く、設備も十分ではありませんでした。11～12の女子寮がありましたが、トイレは1つ、シャワールームは2つしかありませんでした。遠い場所の寮もあり、夜歩くのはとても大変でした。午後9時30分が消灯時間で、それ以降電灯をつけることは許されませんでした。トイレにドアはなく、とても汚く、教室や寮から遠い場所にありました。授業前にトイレに行くと授業に遅れてしまうこともよくありました。それでも、私の学校はラサでは最もいい学校と考えられていました。

上級生からの虐めはときどきありました。教師が生徒を激しく殴ることもありました。教師による暴力は、生徒が負傷するまで続きました。そして、殴られた生徒は他の生徒の前で屈辱を味わいました。

性教育はありませんでした。月経のときにどう衛生的に対処したらいいのかわかりませんでした。多くの女子生徒が重病になりました。今でもこのことを覚えています。

昼食休憩は2時間ありました。そのため、昼食を食べた後1時間ほど自由時間がありました。それ以外は自由時間はありませんでした。週末には宿題が大量に出されました。自分の時間はなく、他の活動は何もで

きませんでした。

学校での生活は困難で、学校を辞めようと何度も思いました。高校1年生の時、1人の女子学生が自殺しました。この件について話すのを学校は禁じました。今になっても自殺の原因は不明です。私の心に怖さと悲しさが残った事件です。

〔証言5〕（2021年のインタビュー）

アムドのマロ州のレブコン県の寄宿制学校の経験

私が寄宿制学校に行ったのは12歳の時でした。レブコン・ゾン民族学校に中学1年生から高校3年生まで通いました。1997～2003年の話です。学校は家から歩いて2時間の場所がありました。毎週末自宅に帰っていました。しかし、自宅が遠い生徒たちは自宅に帰ることはできませんでした。歩いて帰ることは不可能でしたし、バス代も持っていませんでした。このような生徒たちはいつも学校にとどまっていて、緊急時にしか自宅に戻りませんでした。学校に電話設備はありませんでした。布団、食べ物は自分で買わなければなりません。台所では、昼にスープが出されるだけでした。

レブコンでは漢人とチベット人は別々の学校に通っていました。例外的に漢人の学校に通うチベット人がいましたが、彼らのほとんどは役人の子供でした。

学校では自由時間はありませんでした。午前6時には体操が行われ、その後、自習時間、授業、昼食、授業、自習という1日でした。宿題は非常に多く、昼食休憩中も宿題をしていました。午前6時から午後10時まで文字通り自由時間はありませんでした。毎日が同じスケジュールでした。

生活環境もとても悪かったです。トイレは1つしかなく、それも寮から離れた場所にありました。電灯もシャワーもありませんでした。朝体を洗う時には、遠くまで水を取りに行かなければなりませんでした。1つの部屋に30～40人の学生が暮らしていました。お湯はありませんでした。石炭ストーブはありましたが、体を温められるほどの石炭はもらえませんでした。

教師による暴力は日常茶飯事でした。上級生からの虐めもありました。

入学して最初の数か月はとても大変でした。家が恋しくて毎晩泣きました。生活環境は非常に悪く、暴力も常態化していました。食糧は十分でなく、いつも空腹でした。1年前には私のクラスには52人の学生がいましたが、翌年には18人しか残っていませんでした。とても悲しかったです。今でもそのことを思い出すと、大きな喪失感に襲われます。学校の環境が悪かったため、学校を去った学生たちは学校に留まることができなかつたのです。

家族と引き離され、学校からは強いプレッシャーを受け、生活環境は非常に悪かったです。3年間、1日も幸せと感じたことはありませんでした。1日が始まるのも授業に行くのも苦痛でした。中学校の3年間、いつも考えていたことがあります。

「私はいつ家に帰れるのでしょうか。」

日本の皆様へのお願い

私たち、チベット内外のチベット人は、皆様の支援を必要としています。私たちは、皆様や皆様の所属団体より、以下のような支持声明を公表していただけることを、切に願っております。

1. 中国政府に対し、中華人民共和国憲法第4条を遵守し、少数民族の地域的自治と自己統治を約束し、チベット人に真の自治と自己統治を實踐させるよう要請する。
2. 中国政府に対し、少数民族の言語と宗教の自由を保障した、中国の民族区域自治法第10条と第11条を実施するよう求める。
3. 中国政府による人権侵害、ならびにチベット人の言語、文化、アイデンティティの中国化政策を非難する。
4. チベット語は重要な古代語であり、仏教の教えの宝庫である。この言語を根絶することは、世界遺産にとって大きな損失である。
5. 私たちは中国政府に対し、チベット人の子どもたちから母語を奪わないこと、そして全寮制の学校でチベット人の子どもたちに強制的に教え込むことをやめるよう強く求める。
6. 中国政府による宗教迫害、チベット仏教僧院や仏像の破壊、高僧の転生や僧院の管理を含むチベットの宗教問題への干渉を非難する。
7. 中国政府に対し、パンチェン・ラマ11世とその家族の所在を明らかにし、早急に解放するよう求める。
8. ダライ・ラマ15世を含む高僧の転生の選定は、チベット人とダライ・ラマ法王庁の特権であると断言し、日本でも2020年米国チベット政策支援法案のような法案の成立を求める。
9. 中国が任命・選定した将来のダライ・ラマを含むいかなるチベットの転生僧も、国際社会には認められないという声明を公表し、すべての転生僧の選定は、古くからの宗教的伝統に従ってチベット人に委ねられるべきである。

謝辞

本報告書は、多くの研究者、活動家、学者のみなさまのご支援をいただき、Tibet Action Instituteのスタッフが研究、執筆したものです。過去の原稿に目を通して貴重なフィードバックをくださった多くのみなさまに感謝申し上げます。

発行日：2023年10月

著者名：Tibet Action Institute

発行者：ダライ・ラマ法王日本代表部事務所（チベットハウス・ジャパン）

〒161-0031 東京都新宿区西落合3-26-1

TEL：03-5988-3576

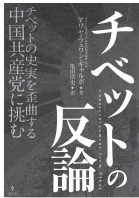
FAX：03-3565-1360

<https://www.tibethouse.jp/>

E-mail: tibethouse.jp@tibet.net

印刷・製本：近代美術株式会社

チベット関連書籍 Books on Tibet



新刊 チベットの反論

販売価格：1,800 円

[—チベットの史実を歪曲する中国共産党に挑む] グライラマ法王日本代表部事務所の代表アリヤ・ツェワン・ギャルポ氏による著書。中共政権のプロパガンダとチベット側の主張が明確に書かれています。

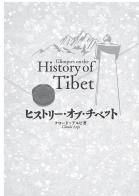
出版社：集古舎 <https://shukousha.com>



ダライ・ラマ法王 14 世金言集 心の智慧

販売価格：1,000 円

ダライ・ラマ法王の愛、慈悲、思いやり、平和のメッセージから代表的な 113 言を法王庁の快諾のもと、チベットハウス・ジャパンより金言集として刊行しました。より多くの方々が法王の言葉を通じて心の平和を見いだされることを願っております。



ヒストリー・オブ・チベット History of Tibet

クロード・アルピ著 (Claude Arpi) 販売価格：1,000 円

著者のクロード・アルピ氏によるチベット史の歴史をもとに作られた本書「Glimpses on the History of Tibet」は、絵や写真を通じて世界で最も高い場所の始祖神話から近代以降の苦闘までのチベットの多彩な文化、政治、宗教をまるで旅するかのよう体験できる本です。



希望 チベット亡命 50 年 Tibet Exile 50

販売価格：1,000 円

ダライ・ラマ法王台湾事務所によって発行された本の邦訳版。中国によるチベット占領、ダライ・ラマ法王の亡命、そしてインドでの中央チベット政権再建から、2009 年で 50 年という月日が経過した。その 50 年間の記録を、オールカラー写真とわかりやすい解説を通じて紹介。



ダライ・ラマ 平和のメッセージ

販売価格：1,000 円

ダライ・ラマ法王の世界平和や地球環境問題に関する思想や見解を掲載。「思いやりと個人」、ノーベル平和賞受賞のスピーチや講演、「普遍的責任と環境」等、ダライ・ラマ法王の非暴力の精神を理解するための鍵となる内容。



チベット語と日本語 英会話の本

アリヤ・ツェワン・ギャルポ著 販売価格：1,000 円

チベット語と日本語を学びたい人々にとって、非常に簡潔で使いやすい会話の手引書になっています。著者が自らの経験をもとにして、日常会話の中で頻繁に使う言葉や語句を中心に書いた本です。

お問合せ電話：03-5988-3576

Email: tibethouse.jp@tibet.net

世界がまだ知らない真実 家族から引き離された子供たち

中国政府がチベットで展開する 植民地的寄宿制学校

中国政府は寄宿制学校をチベットで大規模に展開し、チベット人学生の4分の3を家族から引き離し、この学校に強制的に入学させている。対象年齢は最低で4歳だ。寄宿制学校は、チベット人のアイデンティティを均一な中国人のアイデンティティに置き換える習近平の政策の根幹をなすものだ。これにより、中国共産党統治に対する潜在的な抵抗を抑えることができるのだ。

本報告書では、6歳から18歳までのチベット人の子供たち80万～90万人が中国政府が運営する寄宿制学校で暮らしていることが明らかになった。4、5歳の子供も寄宿制学校に入れられているがその数は不明だ。寄宿制学校の目的は、チベット人の子供を中国共産党に忠実な中国人に作り変えることである。家族や社会から引き離された子供たちは中国語の勉強を強いられる。宗教活動に参加することは許されず、政治的な教化を受けている。

Tibet Action Instituteは、国連および関係する政府に対し、寄宿制学校に暮らしているチベット人の子供たちの状況の調査を要請する。そして、中国政府に圧力をかけ、すべてのチベット人の子供たちが家族から引き離されることなく質の高いチベット語教育を受けられる権利をただちに取り戻すことができるようにすることを要請する。



**SEPARATED
FROM THEIR FAMILIES,
HIDDEN FROM THE WORLD**

CHINA'S VAST SYSTEM OF COLONIAL
BOARDING SCHOOLS INSIDE TIBET